



文教大学学園

2023 年度

事業計画書

2023 年 3 月 31 日

学校法人文教大学学園

目 次

“教育カトップ”の学園を目指して—2023年度事業計画について—	3
1. 法人の概要	
(1) 設置する学校・学部・学科等	4
(2) 学園組織図	5
2. 学園の中長期計画	
(1) 学園の中長期計画について	6
3. 当該年度の事業計画	
(1) 学園全体	11
(2) 文教大学・大学院	12
(3) 文教大学附属中学校・高等学校	27
(4) 文教大学附属小学校	31
(5) 文教大学附属幼稚園	40
(6) その他の施設（八ヶ岳寮）	43
(7) 2023年度の特別な事業	44
4. 当該年度予算の概要	
(1) 2023年度予算基本方針	45
(2) 2023年度予算総括表	45

本事業計画書に記載している計画は、今後新型コロナウイルス感染症拡大の状況等により、変更となる可能性があります。

“教育カトップ”の学園を目指して

—2023 年度事業計画について—

学校法人文教大学学園 理事長 野島 正也

（現在の環境）

文教大学学園は、1927 年創立の「立正幼稚園」、「立正裁縫女学校」を端緒として、現在では学習する園児・児童・生徒・学生等の総数 1 万人を超える総合学園として発展し、2023 年には創立 96 年を数えます。これまでの学園の発展は、ひとえに関係各位のご支援の賜物であり、厚く御礼を申し上げます。

昨今の社会情勢は、18 歳人口の減少やグローバル化・IT 化・AI の進展等の急速な変化に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、社会経済活動の停滞や人々の生活様式の大きな変化が強いられることとなりました。このことは学校法人の運営にも多大な影響を及ぼし、学習者の教育方法や教育環境等の見直しを図ることとなりました。本学園は、そのような状況下においても、来る 100 周年に向けて、教育の質を一層高め、将来を見据えた優れた人材を育成し、学園を更に発展させてまいります。

（学園の中期経営計画）

私立学校法改正に伴い、中期的な計画の作成が義務化され、各大学に持続的な発展に向けた透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うための仕組みの確立が求められています。また、前段で述べた大きな社会の変化の中で、「将来の学園のあるべき姿、そこに到達するための道筋を主体的に描く工程表」の重要性が高まり、学校法人がより社会からの信頼と支援を得ていくためには、中期経営計画を通して、社会に対し、学園の目指す方向性や具体的計画等を明示することが強く求められています。

学園はこれまでも、中期経営計画として 2009 年から学園経営戦略「第 1 次中期経営計画（2009－2012）」、「第 2 次中期経営計画（2013－2016）」、「第 3 次中期経営計画：文教アクションプラン 2021（2017－2020）」を 3 期 12 年間にわたり推進してまいりました。

第 1 次中期経営計画では、学園のハード（校舎リニューアル等）と ソフト（教育力充実、組織・制度改革等）両面にまたがる包括的かつ大規模な計画を実行、第 2 次中期経営計画では「教育力」と「経営力」の抜本的な強化による「アクションプラン」を経営・教学の緊密な連携の下で実行、「第 3 次中期経営計画：文教アクションプラン 2021」では、主体を各校とし、各校が目標やアクションプランを策定・実行し、経営は財務等の面で各校を下支えする体制で実行してまいりました。

「文教アクションプラン 2021」の枠組みを踏襲した「第 4 次中期経営計画：『BUNKYO ACTION PLAN 2025』（2021－2024）」を 2021 年度に策定、掲げた目標達成に向けて、大学および附属学校も含めた学園全体における志願者獲得や教育力、進学実績、就業力の向上、経営における財政基盤の安定や組織ガバナンスの強化、各校の連携等の計画を実行しています。実行後においては、毎年 10 月にアクションプランの進捗や達成状況のチェックを行い、必要があれば改善する等を繰り返しながら PDCA を回しています。

2023 年度は、本格的な計画実行時期に入りますので、改めて、学園教職員一丸となって、計画を着実に実行してまいります。

* * * * *

「学校法人のガバナンス改革を目指した私学法改正」や「定員管理に係る私立大学等経常費補助金の取扱いの変更」等、学園を取り巻く環境が大きく変化することが想定されます。そのような中で、学園としては早期に情報を収集し、適切に対応してまいります。

引き続き、関係者の皆様方のご理解、ご支援をお願い申し上げます。

1. 法人の概要

(1) 設置する学校・学部・学科等

学校・学部別	学科・課程別	入学定員	収容定員
文教大学			
大学院	教育学研究科（修士）	10	20
	人間科学研究科（博士後期）	2	6
	人間科学研究科（修士）	30	60
	言語文化研究科（博士後期）	2	6
	言語文化研究科（修士）	10	20
	情報学研究科（修士）	6	12
	国際学研究科（修士）	5	10
教育専攻科		15	15
教育学部	学校教育課程	200	800
	発達教育課程	150	600
	心理教育課程※1	-	(100)
人間科学部	人間科学科	140	560
	臨床心理学科	120	480
	心理学科	140	560
文学部	日本語日本文学科	120	480
	英米語英米文学科	100	400
	中国語中国文学科	70	280
	外国語学科	70	280
情報学部	情報システム学科	95	380
	情報社会学科	95	380
	メディア表現学科	95	380
健康栄養学部	管理栄養学科	100	400
国際学部	国際理解学科	120	480
	国際観光学科	125	500
経営学部	経営学科	165	660
外国人留学生別科		40	40
大学 計		2025	7,809
文教大学付属高等学校（全日制課程普通科）※2		240	720
文教大学付属中学校 ※2		144	432
付属中学校・高等学校 計		384	1,152
文教大学付属小学校		50	300
文教大学付属幼稚園		60	180
合 計		2,519	9,441

※1 心理教育課程は2020年4月1日に募集停止

※2 付属高等学校及び付属中学校は募集定員

(2) 2023 年度学園組織図



2. 学園の中長期計画

(1) 学園の中長期計画について

1 学園経営戦略『BUNKYO ACTION PLAN 2025』の実行

文教大学学園は、中期経営計画として 2009 年から学園経営戦略「第 1 次中期経営計画（2009－2012）」、「第 2 次中期経営計画（2013－2016）」、「第 3 次中期経営計画：文教アクションプラン 2021（2017－2020）」を 3 期 12 年にわたり着実に実行してまいりました。

そして、新たな中期経営計画となる「第 4 次中期経営計画：『BUNKYO ACTION PLAN 2025』（2021－2024）」を 2021 年度に策定し、計画を実行しております。

① 学園経営戦略『BUNKYO ACTION PLAN 2025』策定の背景

昨今の社会情勢は、18 歳人口の急激な減少期への突入やグローバル化・IT 化・AI の進歩等の様々な大きな変化に加え、新型コロナウイルス感染症の流行により、学校法人の運営に大きな影響を及ぼしてきました。

この教育機関を巡る環境の大きな変化によるこれまでにない他校との競争激化の中で、「将来の学園のあるべき姿、そこに到達するための道筋を主体的に描く工程表」の重要性が更に高まり、学校法人がより社会からの信頼と支援を得ていくために、中期経営計画を通して、社会に対し、学園の目指す方向性や具体的計画等を明示することが強く求められています。

② 学園経営戦略『BUNKYO ACTION PLAN 2025』の実行

『BUNKYO ACTION PLAN 2025』の構造は、第 3 次において実行した「各校の改革の実質化を図るために、各校の主体性を重視し、各校における具体的な目標や事業計画（アクションプラン）を主体となる各校が策定・実行、経営は組織や財政、教育環境等の面で各校を下支えする構造」の枠組みを踏襲しながらも、浮かび上がった各種課題を改善し、より教職員が主体的に推進できる計画としています。

学園のミッションは「人間愛の教育」、長期ビジョンは「教育力トップを目指す」で、4 年後の目標は「総合学園の維持・発展：ていねいにたくましく育てる文教を実践し、トップクラスの教育機関を実現する」、達成指標は「学習者 1 万人以上、学習者の満足度 90%以上」です。

この学園の達成指標を実現するために、各校単位で 4 年後の目標と達成指標を掲げ、カテゴリーごとに「4 年後の具体目標」を示し、「アクションプラン、具体的な取り組み内容、実施スケジュール、ワーキンググループ設置の有無、実行体制、各アクションプランの達成指標」を策定しています。詳細は次ページのビジョンマップ及びアクションプラン一覧をご覧ください。

2022 年度から本格的に実行しており、毎年 1 回アクションプランの進捗や達成状況を理事会に報告し、必要があれば理事会が改善を指示する等、チェックと改善を繰り返しながら PDCA サイクルを回しております。

学園の 4 年後の目標を達成させるべく、教職員が一丸となって、計画を実行してまいります。

『BUNKYO ACTION PLAN 2025』の詳細は、以下の URL よりご確認ください。
https://www.bunkyo.ac.jp/academy/information/action_plan2025/index.php

ミッション
MISSION

『人間愛』の教育

長期ビジョン
VISION

～教育力トップを目指す～

4年後の目標

総合学園の維持・発展
「ていねいにたくましく育てる文教」を実践し、
トップクラスの教育機関を実現する

達成指標

学習者1万人以上
学習者の満足度90%以上

大学

4年後の目標

学生が成長を実感できる大学

達成指標

● 学生生活の満足度向上、
実志願者数7,000人の確保

アクションプラン

重点事業

大学認知度の向上とアイデンティティの醸成
学生募集
志願者・入学者の安定的な確保
教育
質の高い教育の実施

研究

研究体制の充実
学生支援
充実した学生生活の提供
付属学校
総合学園としての発展

地域社会貢献

大学と地域との連携による学内の活性化
国際交流
国際交流の活性化

中学校・高等学校

4年後の目標

『人間愛』の精神を育み、
グローバルな社会・ボーダレスな
社会で活躍できる人間の育成

達成指標

● 生徒・保護者の本校への
入学満足度90%の達成
● 難関大学合格者130人以上の達成

アクションプラン

募集・広報

入学者の質と量の確保
教育
生徒の学力向上
研究
教員の指導力向上

生徒生活

礼儀と規律ある生徒の育成
進路・キャリア
更なる進学実績の向上
地域・社会連携
『人間愛』の精神の育成

国際交流

海外研修プログラムの推進

小学校

4年後の目標

「ふるさとのような学校」において
世界に羽ばたく国際人の育成

達成指標

● 倍率3倍以上の安定した志願者の確保
● 在校生並びに保護者の満足度
90%以上の達成

アクションプラン

募集・広報

倍率3倍以上の安定した志願者の確保
教育
Society5.0時代を生き抜く人材育成
21世紀型スキルとしてのSTEAM教育の推進
研究
1時間ごとに成長できる学校「深い学び」の推進
文教大学付属小学校型アクティブラーニングの確立

児童生活

人間愛あふれる「文教っ子八か条」に基づく
豊かな教育の実践と推進
進路指導
一人ひとりの夢を実現させる進路指導

国際交流

オーストラリア短期留学の充実
外国語教育の充実

保護者・社会連携

学校教育と家庭教育の連携
地域に貢献し地域に愛される私立小学校としての確立

幼稚園

4年後の目標

満足度が高い選ばれる幼稚園

達成指標

● 募集定員60人の安定確保

アクションプラン

募集・広報

安定した入園者の確保
教育
素直で明るい元気な子どもの育成
研究
新幼稚園教育要領に則したカリキュラム作り

園児生活

遊びを通して“生きる力の素”を育む

進路支援

付属小学校及び希望する小学校への進学実現

保護者・地域連携

保護者との連携強化・地域に根ざした幼稚園の確立

経営・管理

アクションプラン

組織

変化に対応できる組織力の強化

財政

強固な財政基盤の確立

教育環境

競争力を持った教育環境の整備

学園ブランド

学園ブランドの強化

大学			
カテゴリー	4年後の具体目標	No.	アクションプラン
重点事業	●大学認知度の向上とアイデンティティの醸成	A101	SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) の普及と推進
		A102	バーチャルミュージアム「(仮称) 文教 Museum」の立ち上げ
学生募集	●志願者・入学者の安定的な確保	A103	今後の学生募集対策の検討
		A104	データ活用による入試戦略の構築
教育	●質の高い教育の実施	A105	留年者数及び退学者数の抑制
		A106	教育質保証の確立
		A107	IR (Institutional Research) 実施体制の確立
研究	●研究体制の充実	A108	外部資金獲得の支援体制の強化
		A109	大学院の充実
		A110	学部・研究科の枠を超えた研究の支援
学生支援	●充実した学生生活の提供	A111	新たな奨学金制度の創設の検討
		A112	キャンパスの活性化
		A113	3キャンパス間の連携
		A114	キャリア支援の更なる充実
付属学校	●総合学園としての発展	A115	付属学校との関係性強化
地域社会貢献	●大学と地域との連携による学内の活性化	A116	社会連携活動の強化
		A117	高校との連携強化 (高大連携)
国際交流	●国際交流の活性化	A118	学生の留学支援体制の充実
		A119	外国人留学生の受入れ体制の充実

中学校・高等学校			
カテゴリー	4年後の具体目標	No.	アクションプラン
募集・広報	●入学者の質と量の確保	B101	募集広報活動の強化
教育	●生徒の学力向上	B102	ICTを活用した効果的な授業の実施
		B103	グローバルコンピテンスプログラムの導入
		B104	模試偏差値の向上
		B105	各種検定の取得の推進
研究	●教員の指導力向上	B106	校内研修の充実
		B107	外部への研修の積極的参加
生徒生活	●礼儀と規律ある生徒の育成	B108	挨拶・言葉遣い、マナーの育成
		B109	基本的な生活習慣の確立
		B110	心を育てる学校行事の実施
進路・キャリア	●更なる進学実績の向上	B111	「文教キャリア教育プログラム」の実施
		B112	進路行事・キャリアガイダンスの強化・大学との連携
		B113	難関校合格者数の向上
地域・社会連携	●『人間愛』の精神の育成	B114	生徒の自治的生徒会活動の推進
		B115	『人間愛』精神の育成
		B116	ボランティア活動の奨励
国際交流	●海外研修プログラムの推進	B117	留学・語学研修プログラムの継続と新規開拓
		B118	希望者によるオンライン外国語講座の実施

小学校			
カテゴリー	4年後の具体目標	No.	アクションプラン
募集・広報	●倍率 3 倍以上の安定した志願者の確保	C101	顕在層（学校説明会や幼児教室訪問で出会える層）からの志願者の拡大
		C102	潜在層（受験しようか迷っている層・受験は考えていないが私立小学校に入れることが可能な層）からの志願者の拡大
		C103	外部への発信力の強化
教育	●Society5.0 時代を生き抜く人材育成 ●21 世紀型スキルとしての STEAM 教育の推進	C104	確かな学力の伸長
		C105	グローバルな人材の育成
		C106	ICT 教育の推進
		C107	「21 世紀型スキル」の育成：STEAM 教育の推進
研究	●1 時間ごとに成長できる学校「深い学び」の推進 ●文教大学付属小学校型アクティブラーニングの確立	C108	魅力的な授業創り・授業力の向上
		C109	教員研修の充実
児童生活	●人間愛あふれる「文教っ子八か条」に基づく豊かな教育の実践と推進	C110	児童による挨拶運動の励行
		C111	「文教っ子八か条」の徹底
		C112	体験活動の充実
進路指導	●一人ひとりの夢を実現させる進路指導	C113	一人ひとりへのきめ細やかな充実した進路指導
		C114	付属幼稚園、付属中学高等学校との連携
		C115	文教大学との連携
保護者・社会連携	●学校教育と家庭教育の連携 ●地域に貢献し地域に愛される私立小学校としての確立	C116	教育懇談会・個別面談の充実
		C117	学校と保護者を結ぶ学校だより、学年だよりの充実 ホームページの充実
		C118	学校周辺地域・東急池上線へのボランティア活動
国際交流	●オーストラリア短期留学の充実 ●外国語教育の充実	C119	オーストラリア短期留学の充実
		C120	諸外国との交流の推進

幼稚園			
カテゴリー	4年後の具体目標	No.	アクションプラン
募集・広報	●安定した入園者の確保	D101	プレスクールの充実（入園審査対象）
		D102	ぶんぶん広場の充実（入園対象外の0歳児～2歳児）
		D103	幼稚園説明会の実施・参加
		D104	ホームページ強化
		D105	募集に係る媒体誌・広告関連の充実
教育	●素直で明るい元気な子どもの育成	D106	“文教スタイル”の確立
		D107	“学ぶ、をあそぼう。”の実践
		D108	生きる力の土台を広げる「遊び」「運動」「行事」「生活」の充実
研究	●新幼稚園教育要領に則したカリキュラム作り	D109	指導力の向上
		D110	勉強会の実施
		D111	少子化と共働き家庭の増加に対する幼稚園の将来展望の検討
園児生活	●遊びを通して“生きる力の素”を育む	D112	挨拶や食事のマナー、手洗い・うがい等、基本的な生活習慣の習得
		D113	動植物と触れ合う機会を増やす
		D114	保護者との「園児の成長のストーリー」の共有
進路支援	●付属小学校及び希望する小学校への進学実現	D115	付属小学校との連携
		D116	公立小学校スタートカリキュラムとの連携
		D117	「文教幼児教室」の定着化
保護者・地域連携	●保護者との連携強化・地域に根ざした幼稚園の確立	D118	幼稚園が「求める家庭・保護者」の明確化
		D119	保護者との連携強化の取り組み
		D120	地域や家庭のニーズの把握とそれに応える方策の検討

経営・管理			
カテゴリー	4年後の具体目標	No.	アクションプラン
組織	●変化に対応できる組織力の強化	K101	教学と経営の連携強化
		K102	学園内の連携強化
		K103	リスク管理体制の再構築
財政	●強固な財政基盤の確立	K104	学園財政の徹底管理
		K105	学習者の安定的確保
		K106	補助金の安定的確保
		K107	寄附金事業の推進
		K108	経費の検討と変更
教育環境	●競争力を持った教育環境の整備	K109	長期施設改善計画の策定
		K110	2学部移転後の湘南キャンパスの最適化
		K111	湘南キャンパス活用方法の検討
学園ブランド	●学園ブランドの強化	K112	学内者への学園理解の再構築
		K113	卒業生との更なる連携・絆の強化

3. 当該年度の事業計画

(1) 学園全体

1 当該年度の学園全体の取り組み（事業計画）

① リスク管理対応体制の強化事業

今後予測される大規模地震が発生した際の危機管理対応力強化のために策定した、大規模地震対応マニュアル（2012年完成、事業継続計画を含む）の内容の周知やマニュアルに沿った各種訓練（本部支部設置、救出救護、要員参集等）と、災害備品・備蓄品の整備・拡充を継続して行います。

2023年度は、大規模地震対応マニュアルの周知訓練及び非常時を想定し、ハザードトークを利用したシナリオ訓練を行います。また、災害備蓄品の整備については、消費期限切れの備蓄品（保存水、保存食等）の入替えや、新たに生理用品の購入を中心に実施します。

② 寄附金事業の推進

2018年度に募集を開始した、文教大学学園の各校（大学、高等学校、中学校、小学校、幼稚園）の就学支援・教育振興等に資することを目的とした恒常的な寄附制度「文教サポーターズ募金」においては、各校の教育研究環境整備を行ったことに加えて、2020年度から新型コロナウイルス感染症拡大の影響により困窮している学生への支援にも充ててきました。また、2022年度7月より「文教サポーターズ募金」の更なる拡充を目指し、大学及び中学校・高等学校の課外活動を対象とした寄附の受付も開始しました。

2023年度も引き続き、在学生の保護者や学園の卒業生等へ募集を行い、各校及び各課外活動団体が実施する事業（教育研究環境の整備や教育活動の奨励、活動充実のための備品購入等）のために、更に推進してまいります。また、ホームページを随時更新し、寄附の現状を発信することにより、寄附金事業への理解促進を図り、強固な寄附金募集体制の確立を目指します。

③ 校友活動の推進

2023年度は、文教大学学園広報誌『あやなり・Bunkyo Pride-』2023年度号の発行と、ホームページによる情報発信を通して、学園の現状理解の促進、愛校心の醸成、並びに校友との連携強化に努めます。また、学園卒業生名簿データの整備、管理も推進します。

併せて、2022年度に初めて実施した校友の交流イベントを2023年度も実施することにより、学園と各校友団体・校友との交流の活性化を図り、学園に対する帰属意識を強化し、学園の維持発展への寄与を目指します。

④ 学園ブランドの強化

「学内者への学園理解の再構築」の具体的な取組みの一つとして、ブランドを音で表現するサウンドロゴの有効性に着目し、2023年度より、授業開始・終了時のチャイム音を各校の「校歌」をアレンジしたメロディーに変更します。また、学園創立者の人物像・功績について、漫画という親しみやすいコンテンツで表現・制作し、活用することで、学園の歴史の理解促進を図ります。

(2) 文教大学・大学院

1 文教大学のポリシー

① 文教大学の理念 - 人間愛の教育

人間愛とは、人間性の絶対的尊厳とその無限の発展性を確信し、すべての人間を信じ、尊重し、あたたかく慈しみ、優しく思いやり、育むことです。文教大学は、人間愛の教育を実践します。

人間愛の教育とは、教員と学生、また学生と学生との関係を重視し、学生一人ひとりの個性を丁寧に伸ばすことを目指し、人間愛を持って学生を教育することです。その教育を通して、人間を信頼し全ての人に対して温かい愛情を持つ人材を育てることを目標とします。

② 各学部、研究科の教育研究上の目的

文教大学の教育・研究は、「人」を共通のキーワードとした総合的学問領域に対応しています。人間に直接関わる課題、現代社会が抱える様々な問題に関する専門的知識やスキルを有する専門家、スペシャリストを養成します。

大学

学部	学科・課程	教育研究上の目的
教育学部		教育学部は、本学の建学精神に則って、有為な教育者を育成することを目的とする。
	学校教育課程	学校教育に関する知識と技術を基盤とする教育及び研究を行い、現代社会の中で使命感と情熱を持って主体的に学び続け、教育を創造する資質と能力を備えた学校教員を養成する。
	発達教育課程	教育学・保育学、心理学に関する知識と技能を基盤とする教育及び研究を行い、乳幼児期から児童期・青年期に至るまでの発達の連続性と多様性を踏まえ、心身の連関と人間形成の基盤の育成を担う教育者を養成する。
人間科学部		人間科学部は、本学の建学精神に則って、人間の総合的な理解と人間生活の向上に必要な理論的、実践的知識と技術を涵養することを目的とする。
	人間科学科	現代文化、人間教育、社会福祉の3領域を教育及び研究の幹とし、人間性の総合的理解を通じ、教員や福祉の専門家を始めとして、人間社会に対する深い実践力・洞察力を持った幅広い分野で活躍できる人材を養成する。
	臨床心理学科	心理学の応用・実践分野として、家庭、学校、医療、福祉、司法、産業及び地域社会の諸問題へのアプローチを含む広義の臨床心理学を探究し、現代社会が直面している心のケアに関する専門的な援助ができる人材を養成する。
	心理学科	人間の科学的・客観的理解を目的として、基礎心理学並びに応用心理学である健康心理学・ビジネス心理学に関する教育及び研究を行い、実践場面に適用できる人材を養成する。

文 学 部	文学部は、本学の建学精神に則って、文学及び語学を通して、日本及び世界の文化に関する知識と技術を涵養することを目的とする。	
	日本語日本文学科	日本語・日本文学を通して日本文化の教育及び研究を行うとともに、日本語の高度な運用能力を身につけて、広く社会に貢献できる人材を養成する。
	英米語英米文学科	英米語・英米文学を通して英語圏文化の教育及び研究を行うとともに、英語コミュニケーション能力を身につけて、広く社会に貢献できる人材を養成する。
	中国語中国文学科	中国語・中国文学を通して中国語圏文化の教育及び研究を行うとともに、中国語コミュニケーション能力を身につけて、広く社会に貢献できる人材を養成する。
	外国語学科	高い英語運用能力を修得するとともに、多言語多文化に対する理解と対応力を養うため、英語以外のもう一つの外国語運用能力を身につけて、言語バリアを越えて広く社会に貢献できる人材を養成する。
情 報 学 部	情報学部は、本学の建学精神に則って、情報の総合的な理解と社会生活における情報の効果的利用に必要な理論的、実践的知識と技術を涵養することを目的とする。	
	情報システム学科	情報システムに関して、基礎から応用にいたる多面的、総合的な方法論を身に付け、新たな情報システムの創成を通じて、人間を中心とした情報社会の発展に貢献できる高度職業人を養成する。
	情報社会学科	情報化によってもたらされた利害を認識し、現代社会における人と社会の要求を的確に把握する力を養成するための多面的、総合的な方法論を身に付け、情報社会に基礎を置く諸活動の創成を通じて、人間を中心とした情報社会の発展に貢献できる高度職業人を養成する。
	メディア表現学科	メディア環境のグローバルな変化に対応すべく、人間の社会的なメッセージの伝達過程およびメディア文化に関する総合的な理解を深め、情報を創出・伝達・分析するための方法論を身に付け、人間を中心とした情報社会の発展に貢献できる高度職業人を養成する。
健 康 栄 養 学 部	健康栄養学部は、本学の建学精神に則って、健康科学と栄養科学を通して、現代社会における生活習慣病等の基礎知識を理解し、予防医学の観点から健康の維持・増進に寄与するために必要な理論的、実践的知識と技術を涵養することを目的とする。	
	管理栄養学科	管理栄養士としての力とコミュニケーション力を兼ね備えた、予防医学を担う栄養の専門家としての「ココロとカラダの健康を育む管理栄養士」を養成する。
国 際 学 部	国際学部は、本学の建学精神に則って、国際社会を学術的、実践的に理解し、もって人間生活と国際化社会の向上発展に必要な理論的、実践的知識と技術を涵養することを目的とする。	
	国際理解学科	コミュニケーション能力を身につけ、国際社会に関する知識と理解力を有する地球市民として、NGOやNPO、学校教育及び産業界における国際交流、国際協力、環境問題対策などの領域で社会に貢献できる人材を養成する。
	国際観光学科	社会科学を基盤に、ビジネス及び地域づくりとしての観光に関する教育及び研究を行う。グローバルかつローカルな視野と問題解決能力を培うことによって、国際観光領域で活躍できる人材を養成する。

経営学部	経営学部は、本学の建学精神に則って、豊かな教養を育み、人間を尊重する経営の重要性を理解し実践する総合的知識と技術を涵養することを目的とする。
	経営学科 社会のより良き一員として生きていくための基礎能力を修養し、そのうえで、経営資源に関する多面的な理解と経営で出現する情報を扱う科学的な技術、そして人を活かす考え方や手法を学び、それらを総合的に活用して、産業界から行政にいたる幅の広い分野・職種で活躍できる人材を養成する。

大学院

研究科・専攻	教育研究上の目的
教育学研究科 学校教育専攻	教育学、心理学、各教科指導法などの領域における高度に理論的な教育・研究とともに、各領域間の連携を深めつつ、学校教育を包含したより広い教育のあり方について考究することができる人材を養成すること。
人間科学研究科	人間科学を構成する諸学問の知見を踏まえ、人間の心理と社会に関する総合的な理解及び学術性や実践性を備えた研究等を通じて、心の健康や人間性などに関して幅広い見識と高度の専門的能力を身につけた人材を養成すること。
臨床心理学専攻	修士課程においては、心理学及び臨床心理学の学識を身につけるとともに、臨床体験によって習得した臨床技能及び臨床を踏まえた研究を通じて、高い専門性と豊かな人間性を備えた心理臨床家を養成すること。博士後期課程においては、一層高度の研究・学識・技能を通じて、臨床心理学領域における自立した研究者及び心理臨床家の指導ができる高度専門職業人を養成すること。
人間科学専攻	心理学・社会学・教育学・社会福祉学などの学際的・総合的知見を基礎とし、研究・実践を通じて、人間と社会に関する幅広い見識と、諸課題解決に対する高い専門性を持つ社会に貢献できる人材を養成すること。
言語文化研究科 言語文化専攻	言語及び言語文化に関する基礎理論の修得を基盤に、各地域の言語・文学（上演芸術を含む）・文化に対する専門的な理解を通して、広く異文化間に架橋できる高度な専門的職業人を養成し、また第二言語に対する先端的な言語能力の修得と研究により、国際的な言語教育の分野において指導的な役割を果たす人材を養成すること。
情報学研究科 情報学専攻	情報システム及び情報コンテンツの分野について、システムに関する知識を有し、システムの能力を十分に利活用できる能力、及び利活用に関するニーズを情報システムの構築に反映できる能力を併せ持つ人材を養成すること。
国際学研究科 国際学専攻	社会、政治、経済、文化、コミュニケーションなどの知識を基礎に、国際協力、市民社会、観光などの領域での専門的知識や実務的技術を通じて、“Think globally, act locally”を実践できる高度専門職業人を養成すること。

③ 文教大学のカリキュラムの特徴・特色

1. 幅広い教養の育成と専門領域の深化を目標とした教育課程を編成しています。
2. 教員と学生の対話を重視し、ゼミ等の少人数教育を重視した教育課程を展開しています。
3. 留学、インターンシップ等の学外・海外実習プログラムを設け、学外においてコミュニケーション等の技術、専門的知識を学修できる場を提供しています。

④ 文教大学が求める学生

文教大学は、次のような学生の入学を期待しています。

1. 人間愛の教育に対する理解と共感を有する人
2. 志望する学部の特長分野に対する関心と学ぼうとする意欲を持っている人
3. 志望する学部で学ぶにあたり必要な一定の学力を有する人

2 当該年度の教育目標

建学の精神である「人間愛」を基盤に、人と人との絆を大切にしながら社会に貢献できる人材を輩出するべく、入学時の初年次教育から卒業時の卒業研究等に至る4年間を通じて、全ての学生に目が届きめ細かい教育を行います。また、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、本学の教育課程を実行します。

3 当該年度の教育活動計画

① 新型コロナウイルス感染症対策と教育課程の実行と充実

新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで、本学の教育課程を着実に実行します。また、対面形式の授業とオンライン形式による授業を効果的に併用し、更なる充実を図ります。

② 入学前教育

総合型選抜及び学校推薦型選抜の手続者を対象に、2015年度から全学部で実施している入学前教育を引き続き実施します。

③ 初年次教育

学部学科等で開設している初年次教育を更に充実させるため、基礎的なアカデミック・スキルを身につけるための授業内容の検討を進めます。また全学部に通じたプログラムの検討を継続します。

④ カリキュラムの検証・体系化の検討

定期的なカリキュラムの点検を行うことによって、常に効果的な学修が行われるよう、引き続き整備に努めます。

⑤ 担任制度とオフィスアワー制度

担任制度やオフィスアワー制度等学生が相談しやすい環境を作り、各学部の教員と担当事務局や学生支援室が相互に連携しながら、引き続き学生支援体制の充実を図ります。

⑥ キャリア形成支援

正課内に留まらず、全学的に学生のキャリア形成を支援する体制を構築します。学生の様々な進路希望に応じて、4年間を通じてどのような指導・支援が学内で提供されているかを示すキャリア形成マップの作成を継続して行います。

⑦ 国際交流事業の推進

各学部、研究科等と国際交流センターで連携し留学プログラムを実施します。新型コロナウイルス感染症の流行の状況を鑑み安全対策を講じ、海外渡航を伴うプログラムを本格的に再開します。また、海外教育機関等とのオンラインによる海外交流プログラムを実施し、海外への渡航に不安をもつ学生が国際交流を通じた学修の機会を確保できるよう努め、学生がオンラインのプログラムであっても多様な体験に積極的に取り組むことができる環境を提供します。

⑧ 大学基準協会による認証評価結果への対応

2022年度の認証評価結果を踏まえ、引き続き組織的な検証を行い、教育・研究の質の向上に努めていきます。

⑨ 各学部における取り組み

各学部での特徴的な取り組みは次のとおりです。

ア. 教育学部

- 1) 教員・教育関係職に就く卒業生のネットワークづくりの取り組みとして「文教大学教育フォーラム」を開催します。
- 2) アメリカ・メリーランド州の小学校・中学校での英語による教育実習体験を通して、アメリカの教育制度や文化を学ぶ「アメリカ学校教育研修」を実施します。
- 3) 英語指導者を志望する学生向けに国際コミュニケーション能力を高めるための海外研修として、アメリカ・ハワイ大学での2週間のインターンシップ/サービス・ラーニング（パイロットプログラム）を実施します。
- 4) 越谷市教育委員会との連携による「先生の助手」体験プログラムを実施します。
- 5) 2020年4月から、学校教育課程と新たに設置した発達教育課程の2課程で新生教育学部をスタートしました。学部オリジナルパンフレット等を通して広報活動を積極的に行い、本学の教育学部が目指す方向性、教育内容、さらに取得可能な免許・資格の周知を図ります。

*上記2)、3)については、新型コロナウイルス感染症の流行状況により、オンライン授業等に変更となる可能性もあります。

イ. 人間科学部

- 1) 学生の自己理解・企業理解、自己表現の力を高めるための「スペシャル就活ゼミ」を行います。過去10年間の実績を踏まえつつ、2021年度からサポートの開始時期を従来の3年生の秋学期から3年生の春学期に前倒しして就活の早期化の流れに対応しました。2023年度もこれを継続します。
- 2) 社会福祉士及び精神保健福祉士の国家資格取得希望者を支援するための受験対策講座を行います。
- 3) 情報提供型の進路支援として就職活動体験レポート『先輩からのメッセージ～夢をつかもう～』を発行します。
- 4) 臨床心理学科と心理学科では、国家資格「公認心理師」資格を取得するための大学における指定カリキュラムを提供し、資格取得を目指す学生を支援します。

ウ. 文学部

- 1) 学生の基礎力向上及び就職活動の一助として、自身のジェネリックスキル（特定の専門分野に関係なく、社会において全ての人に求められる能力で、コミュニケーションスキルや論理的思考力等）を把握するための PROG（Progress Report of Generic Skills）テスト

を全学科の1年生及び3年生の希望者を対象に実施する予定です。

- 2) 海外協定校への留学に結び付ける試みとして、留学意欲の高い学生に対し留学申請時にスコアが必要なTOEFLやその他の語学検定試験の受験費用を補助する支援を行います。
- 3) 就職支援として、就職活動体験談冊子『就職への道』を発行します。また、各種教員・公務員・企業就職決定者による就職体験報告会、日本語教員養成コースの体験報告会「日本語教員への道」、及び中高国語教員志望者向け教育実習経験交流会（日本語日本文学科）を開催します。
- 4) 外国語学科では2年次春学期科目として「1セメスター留学」を実施しています。これは、2年生全員が、北米・ヨーロッパ・オセアニア・アジアの8校の海外提携教育機関に分かれて英語研修を行うものですが、新型コロナウイルス感染症が継続して流行している場合には、海外提携機関のオンライン授業及び日本校でのスクーリング等の組み合わせによる代替プログラムでの履修を行います。
- 5) 協定校である北京外国語大学で開催予定の国際シンポジウム（協定校の韓国外国語大学校を始め、中国・韓国その他海外の研究者も多く参加する）に参加します。また、フランスに新たな協定先を開拓します。

エ. 情報学部

- 1) 初年次教育として、メディア表現学科では「文章演習」によって、アカデミック・ライティングの基礎を習得する機会を用意しています。具体的には、表記・用語・文章構成やアウトラインの作り方、さらには執筆のための素材を集めるための情報探索法を学びます。発展として、図書や新聞・雑誌記事を読み込んだうえで、時事的なテーマについての小論文も作成します。そのような取り組みを通し、学生に明瞭かつ論理的な文章を書く能力を身に付けさせ、学部で学んでいくための基礎技能を定着させます。
- 2) ベトナムとモンゴルの提携校で実習等を行う「海外研修A・B」や、各校からの学生・教員の招聘、ベトナム・FPT大学からの交換留学生受入れ等により、本学部生と海外の学生との交流を促進し、グローバル化への視野を開く機会を積極的に提供します。
- 3) 学生による学修成果物を東京ゲームショウやニコニコ超会議等、外部の展示会に出展し、産業界との連携を図るとともに、学生のキャリア支援を行います。
- 4) 自身の所属する学科以外の「ゼミナール I・II」も履修できるようにすることで、学部の教育リソースを活用するとともに、情報システム学科では「プロジェクト演習 D・E」との連携を図ることで、専門的な知識と技術の主体的・実践的な学びを実現します。

オ. 健康栄養学部

- 1) 理科系専門科目を学ぶうえで必須となる「化学」について、学生の基礎知識の底上げと学習意欲向上を目的とした、少人数制指導による補習を引き続き行います。
- 2) 管理栄養士国家試験対策を引き続き行います。2023年度も専従スタッフによる個別指導をベースとし、4年生には模擬試験（年10～12回）及び模擬試験解説授業、国家試験合格水準に達していないと判断される学生を対象とした夏期講座（延べ30日）、国家試験直前講座（2月）、外部模試及び解説授業、2・3年生には模擬試験と学習用ノート作り等の指導・支援を行います。

カ. 国際学部

- 1) 新入生に対する入学前教育の一環として、総合型選抜・学校推薦型選抜による入学予定者を対象に、学部教員が作成したWebベース教材による相対指導を行います。
- 2) 学生の主体性育成と学部活性化の一環として、新入生を対象としたガイダンスを上級学生がリーダーとなって企画・運営します。また、卒業予定学生（主に4年生）には卒業論文

をベースとした研究発表を卒業研究発表会で課す等、学部独自のイベントを通して「自身で考え、主体的に行動できる学生」を養成していきます。

- 3) 地域社会との関わりや国内外でのボランティア活動等を重視し、地域の国際交流組織やボランティア団体等との交流を深めます。
- 4) コロナ禍の状況を勘案しながら、大学・学部主催の国際交流研修プログラム、学部の短期留学プログラムの実施、留学支援、海外ゼミ活動の拡充等を行います。また、学生への海外危機管理教育を行います。
- 5) 1年生を対象にTOEICや就職向けの適性試験の対策講座を設けることで、外国語（英語）学修意欲の喚起や、就職率の向上及び進路意識の啓発を図り、早期からのキャリア支援体制を充実させます。

キ. 経営学部

- 1) 現行カリキュラムを円滑に実施し、専門性、教養、そして語学力を高めるとともに、「創造的思考力」、「協働」、「コミュニケーション」における独自の能力向上を図ります。
- 2) 東京あだちキャンパスにある学部として地域連携に取り組みます。足立区を始め東京都や近隣の教育機関、企業、団体との連携関係を構築し、地域連携を視野においた授業において内容を充実させます。
- 3) 大学の高大連携事業に協力し、東京都や埼玉県の高校との交流を深めます。
- 4) 入学予定者の保護者を対象とした学部教育説明会を実施し、保護者と連携を一層強めることで、学生指導の強化を図ります。
- 5) 新型コロナウイルス感染症の流行によって従来の日常生活が送れず、精神的にダメージを受けた学生が少なからずいるため、大学の関係部署と連携して心のケアに努めます。
- 6) 就職率の向上を目的として、経営学部生向けに特化した就職講座を引き続き実施していきます。そのための統一ゼミを年数回実施します。

⑩ 大学院における取り組み

大学院各研究科において、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づき、授与する学位にふさわしい力をつけさせるための教育及び研究指導を行います。

ア. 教育学研究科

- 1) 越谷市教育委員会及び越谷市立小学校・中学校等の地域社会と連携した実践研究と対話型の徹底した少人数教育を行います。（2022年度は新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、実施しました。2023年度も感染状況により、実施を検討します。）
- 2) 2018年度から大学院生へタブレット端末を貸与しています。2023年度もICTを活用した学修支援体制を引き続き整備します。
- 3) 2022年度には教育現場における教育諸課題に対応するためのカリキュラム充実を検討しました。特に、ICT活用の授業論を含む「教育課題特論Ⅳ」は、近年学生のニーズが高いにも関わらず、非開講が続いていましたが、2023年度より開講できる見通しとなりました。2023年度も引き続き、カリキュラムの充実を検討します。
- 4) 現職教員等の大学院受入れを増やすため、さらなる方策を検討します。なお、2023年度には、埼玉県現職教員派遣制度を利用した学生が1名入学予定です。

イ. 人間科学研究科

- 1) 臨床心理学専攻、人間科学専攻共に2018年度にカリキュラムを変更しました。臨床心理学専攻では公認心理師及び臨床心理士を養成するためのカリキュラムに対応し、資格取得

を目指す学生を支援します。

- 2) 修士課程在学学生及び修了後5年度内の修了生を対象に論文コンテストを継続して開催します。
- 3) 自治体・地域団体・大学と連携して取り組んでいる地域活動を地域連携フォーラムや、地域連携事業等を通して支援します。
- 4) 『BUNKYO ACTION PLAN 2025』の重点事業であるSDGsとの連携を意識した教育に取り組めます。
- 5) 修了生と在校生とのネットワークを通して、実習や就職につながる情報交流の場を設けます。

ウ. 言語文化研究科

- 1) 北京外国語大学日語学院、北京大学外国語学院との交換留学、及び相互の大学院生に対する集中講義、特別講義等を実施して国際交流の強化を図るとともに、教育内容の更なる充実と進化に取り組めます。
- 2) 博士後期課程の特色ある展開として、北京大学MTI（通訳翻訳修士課程）を始めとする実学修士からの受入れ体制を整備するよう継続して取り組めます。
- 3) 博士後期課程において、学位授与を継続的に行えるよう、引き続き研究指導體制を着実にを行い、大学院生の研究発表等の支援を更に充実させます。
- 4) すでに本研究科博士後期課程を修了し、博士学位取得後、中国に帰国し大学教員として就任している修了生の各大学との連携、提携を図り、学位取得後の研究のさらなる支援を行うとともに、本研究科への大学院留学の誘導を図る支援と供給の環境づくりに取り組めます。

エ. 情報学研究科

- 1) 2021年度より本研究科教員は2キャンパスの所属となり3年目を迎えることで、より安定した運用を行います。講義や研究指導だけでなく、各発表会の対面とオンラインのハイブリット開催をより円滑に実施する仕組みの確立に取り組めます。
- 2) 大学院生のキャリア形成について、本研究科修了生、在学学生、また、本研究科での研究を希望する者などから多面的に調査をおこない、本研究科の在り方についての検討に取り組めます。

オ. 国際学研究科

- 1) 茅ヶ崎市および湘南地域の自治体と国際学研究科の連携事業として、湘南地域自治体の職員研修の開催を引き続き行います。
- 2) 大学院生および本研究科修了生のキャリア支援を主な目的とした講演会や交流会を企画、実施します。
- 3) ドイツ・オズナブリュック大学及び中国・廊坊師範学院との協定に基づく交流を継続して行います。
- 4) 大学院への外国人留学生の獲得のために、「外国人留学生別科」との連携を強化します。
- 5) 毎年秋に開催されている「グローバル・フェスタ」「国際協力キャリアフェア」への出展を行います。
- 6) 日本国際文化学会との連携で設けている「インターカルチュラル・コーディネーター」の資格取得プログラムを継続して運用します。

⑪ 教育専攻科における取り組み

- 1) 小学校教諭専修免許状取得のために、高度な実践的指導力が身に付くよう指導します。
- 2) 教員採用試験の合格を目標に支援します。
- 3) 小学校での現場体験を行います。

⑫ 外国人留学生別科における取り組み

- 1) 本学の学部や大学院を始め、国内の様々な学校に入学を志望する留学生に対して、日本語や日本事情等の準備教育を行います。
- 2) 演習授業や研修等を通じて、日本文化体験の機会を提供します。

4 当該年度の研究活動・支援計画

① 外部研究費（科学研究費補助金等）の獲得支援

教育研究推進センター（研究推進部門）を中心に、説明会の開催を始め、外部研究費獲得支援を強化します。科学研究費補助金に不採択となった研究計画に対して、翌年度の申請を条件とした研究及び研究準備の支援も継続して学内の競争的資金（以下、学長調整金）で行います。

② 学内の競争的資金

学長調整金による教育改善に関わる事業の支援を行います。専任教員の教育改善の取り組みに対して、1件当たり最大200万円の支援を行います。支給を受けた者に対しては、3年以内に成果レポートの発表を義務付けます。

また、学長調整金では、1件当たり最大50万円の範囲で出版以外の形態による研究成果発表、1件当たり最大100万円の範囲で地域連携、国際交流等の事業の実施を支援します。

③ 学術図書出版助成

博士論文を始めとした専任教員の学術図書刊行を、出版に要する著者負担額の50%（上限 100万円）の範囲内で支援します。

④ 在外研究の支援

専任教員の在外研修について、2023年度は国外研修1名、国内研修1名を派遣するほか、学内研究所で1名が研修を実施します。また、2024年度についても国内・国外研修及び学内研修のそれぞれにおいて2名以内計6名の派遣枠で募集します。

5 当該年度の学習者支援事業計画

① 奨学金、奨励金及び授業料減免による学生への支援

ア. 「大学等における修学の支援に関する法律」に基づく授業料及び入学金の減免制度について、学生への情報提供や減免制度の対象となる学生の手続等について支援を行います。また、同制度と文教大学奨学金及び緊急特別奨学金制度の併用により、経済的に修学困難な学生に対しより広く、効果的な支援を行います。

イ. 成績優秀者への奨励金制度により、学生の学習意欲喚起を図ります。

- ウ. 私費外国人留学生に対する奨学金制度及び授業料減免制度による、経済的に修学困難な私費外国人留学生への経済的な支援を行います。
- エ. 文教サポーターズ募金を原資とした新型コロナウイルス感染症対策学生支援のための緊急特別奨学金制度を継続し、必要な学生への経済的支援を行います。

② 障がいのある学生への支援

2016年度に定めた「文教大学における障がいのある学生への支援に関する基本方針」に基づき、当該学生のニーズにより、合理的配慮を実現します。

③ 100円朝食の実施

学生の父母と教職員で構成する協力団体（以下、父母と教職員の会）との共同事業として学生に規則正しい食生活を促し、朝食をしっかりとってから授業に参加することで集中力を高めてもらう効果を期待した「100円朝食」を引き続き行います。

④ 海外留学希望者に対する支援

海外協定校への留学意欲が高い学生に対し、越谷キャンパスでは、留学時にスコアが必要な各種検定試験の受験料の補助を行います。また、言語教育センター主催の各国語学のネイティブによる講座、English Free Talking（英語でのランチタイムミーティング）等を通じて、語学力の向上と異文化理解の深化を促し、留学へのサポートとしています。湘南キャンパス及び東京あだちキャンパスでは、英語力を高めるために開設する講座の受講料及びTOEFL受験料の補助を行います。また、東京あだちキャンパスでは、多言語学習ラウンジ（Language Garden Adachi）においても英語学習のサポートを行っています。国際学研究科では、海外で調査を行う学生のために渡航経費のサポートを行っています。

⑤ アジアからの協定校交換留学生に対する住居費補助

本学への留学の可能性を広げるため、本学が指定した住居に居住するアジア（オセアニアを含む）からの交換留学生に対する住居費の補助を引き続き行います。

⑥ キャリアイングリッシュ講座（東京あだちキャンパス）

地域連携センターでは、学生の英会話能力の向上を目的としたネイティブスピーカーによる少人数制（1グループ最大12名）の講座を開講します。

⑦ バス通学定期券等購入代金補助事業（湘南キャンパス）

湘南キャンパス最寄り駅（茅ヶ崎駅・寒川駅及び湘南台駅）から文教大学行きの路線バスを利用して通学する学生に対し、通学定期券購入代金の一部を補助する事業を行います。

6 当該年度の保護者連携事業計画・地域連携事業計画

① 地域、行政、企業と大学の連携・協力

- ア. 越谷市との連携包括協定に基づき、定期的な連絡会を持ち、行政や地域との連携について協議を深め、連携事業を計画します。
- イ. 文教大学越谷図書館で1982年度から続く連携事業である「あいのみ文庫活動」を引き続き行

います。あいのみ文庫の活動は大きく2つの活動を軸に進めます。

- 1) 図書館児童室を使用した週1回(授業のある期間の木曜日午後)の文庫活動(図書の貸出、お話し会等)
 - 2) 保護者・大人を対象とした講座の開催(絵本の読み聞かせの技法等)
- ウ. 2018年に発足した、越谷市消防団「学生機能別団員」においては、大規模災害発生時の避難所の運営補助や消防団イベントにおけるPR活動等に取り組んでいます。また、地域活動だけに限らず、大学の中においても研修会・訓練等で得た知識を避難訓練等で積極的に役立て、模範となる行動を実践し、将来にわたって、「共助」の一翼を担う人材になることを目指しています。
- エ. 2013年5月に締結した「神奈川県警察と文教大学とのサイバー犯罪の防止に係る連携協力に関する協定」に基づき、県警が行うサイバー防犯ボランティア活動への学生参加や、ボランティア育成への協力、違法有害情報検出に関わる共同研究等、安全・安心なインターネット利用環境の整備・提供に寄与します。
- オ. 2012年11月に締結した「神奈川県教育委員会と文教大学とのインターネット等の安全・安心な利用に係る連携協力に関する協定」に基づき、情報学部を中心に県立学校や県内の市町村教育委員会との連携協力のもと、児童・生徒の携帯電話やインターネットの安全・安心な利用に係る諸課題の解決に向けた教員の研修、調査研究、学校教育上の様々な課題に取り組み、神奈川県教育の充実・発展に寄与します。
- カ. 2015年5月に締結した「寒川町と文教大学との連携協力に関する包括協定」に基づき、まちづくり懇談会や出張講座等に協力し、地域社会の発展に寄与します。
- キ. 2017年6月に締結した「足立区と文教大学との包括的な連携協力に関する協定」に基づき、足立区及び区内5大学等と連携し足立区を中心に地域連携事業を企画し実施します。
- ク. 2021年5月に締結した「茅ヶ崎市と文教大学との包括連携に関する協定」に基づき、地域課題の解決に向けた人材の育成やまちづくり等に協力し、地域社会の発展に寄与します。
- ケ. 2022年2月に締結した「埼玉県教育委員会と文教大学との連携協力協定」に基づき、埼玉県の教育の充実・発展に寄与します。
- コ. 2018年6月に締結した「連携協力に関する協定」に基づき、第一勧業信用組合と東京都内の地域活性化や学生のインターンシップ等の連携活動を推進します。また、同じく2019年1月に締結した「文教大学と足立成和信用金庫の産学連携に関する協定」に基づき、定期的に情報交換の場を持ち、足立区内を中心に地域活性化や学生のインターンシップ等の連携活動を推進します。
- サ. 2023年2月に締結した「学生ボランティア活動推進に関する協定」に基づき、公益財団法人日本財団ボランティアセンターと連携し、学生のボランティア活動の支援拡充を図ります。
- シ. 各連携事業については、新型コロナウイルス感染症の状況や各自治体等の事業実施方針等にも十分留意したうえで実施可否を検討します。実施する場合は新型コロナウイルス感染症対策を徹底します。

② 学部・研究科の教育・研究と結びついた地域連携の取り組み

ア. 教育学部

2003年2月に締結した「越谷市教育委員会と文教大学との連携事業(パートナーシッププログラム)に関する協定」に基づいて越谷市内小中学校で行われる研究発表会・研究授業に学生が参加し、現場での教育活動に触れ、自らの研修を深めます。

イ. 文学部

新型コロナウイルス感染症の流行が収束した場合、日本語教員養成コースで学んでいる学生が外国人を対象とした日本語講座に出向き、ボランティアで日本語を教える取り組みを継続します。

ウ. 情報学部

2013年5月に締結した「神奈川県警察と文教大学とのサイバー犯罪の防止に係る連携協力に関する協定」に基づき、サイバー犯罪の防止に関する研究交流等を推進し、その成果を生かして県民に安全・安心なインターネットの利用環境を整備し、かつ、提供します。具体的な取り組みとして、茅ヶ崎市近隣の小学校・中学校や保護者等から依頼を受けた際には学生ボランティアを派遣し、「サイバー防犯教室」を実施します。

エ. 国際学部

小学校・中学校・高校での学修支援ボランティア活動を継続して行うとともに、東京都足立区の国際交流団体や地元ボランティア組織との交流を通して、「子ども食堂」等の地域活動を学生とともに積極的に行います。また、本学が高山市と締結した「高山市と文教大学との連携・協力に関する協定」に基づいて、文化・教育及び地域振興等に関わる多様な分野で連携・協力を図るとともに、同市の開催する市民講座やイベントでの講演や講義を実施します。

オ. 経営学部

行政が抱える課題の解決を目指す実践的な演習科目として2016年度に開講した「公共経営実地演習」について、足立区の協力のもと、引き続き演習内容の充実を図ります。足立区役所各部局の政策担当者等を講師として招聘し、個別の政策事例を用いて、グループディスカッション形式による講師とのインタラクティブな政策分析や代替政策の検討を行います。当該の行政が抱える課題を解決すべく、足立区役所関係機関・関係施設等のタイアップのもと学外での職場体験実習を含め実践演習を進めていきます。

カ. 教育学研究科

「実践研究」協議会を越谷市教育委員会、関係小学校・中学校、研究科（教員、大学院生）の参加により開催します。（2022年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部内容を縮小して実施しました。2023年度も感染状況により、実施を検討します。）

キ. 人間科学研究科

研究科主催の地域連携フォーラムを、人間科学研究科における研究・実践活動や成果を地域社会に還元していく社会貢献活動の一環として位置付け、地域連携・産官学連携・ステークホルダーとの意見交換や連携の場として2010年度より実施しています。2023年度以降も様々な形態の地域連携活動を支援していきます。また、獨協大学「地域と子どもリーガルサービスセンター」と継続的に連携し、学生の正課外実習及び有資格者の教員による相談業務を行います。

ク. 情報学研究科

教員の研究テーマに沿った地域との連携事業が個々に活発におこなわれており、研究支援を通して、地域連携に取り組んでいます（「茅ヶ崎市における自転車走行環境の向上に関する事業の推進」など）。また、研究を起点として、地域行政や団体等から委員の委託を受けています。

ケ. 国際学研究科

2021年度に本学が茅ヶ崎市と締結した「茅ヶ崎と文教大学との包括連携に関する協定」に基づき、国際学研究科における実践的な教育・研究の充実と、地域の実態に則した茅ヶ崎市の政策や行動に資する協働事業を行います。

③ 高大連携の取り組み

- ア. 学部ごとの特性を生かした高大連携を推進するとともに地域連携センターを窓口とした全学的な連携事業の在り方を検討します。
- イ. 埼玉県内の高校生が普通の大学の授業を学生と共に受講することにより、将来の学校や学部選択の参考にする「県民の日 高校生『学び』“夢”プラン」に全学部で参画します。
- ウ. 越谷キャンパスでは、協定を締結した学校の生徒の授業聴講を受入れます。
- エ. 湘南キャンパスでは、神奈川県立総合教育センターとの連携講座を継続して実施します。
- オ. 東京あだちキャンパスでは、足立区役所大学連携担当部門と連携し近隣高校との交流を通して連携に繋がる事業を検討します。

④ 地域連携センターによる講座

- ア. 越谷・湘南・東京あだちキャンパスにおいて、地域の人々を対象に、様々なテーマのオープンユニバーシティ（有料講座）、市民フォーラム、特別講演、公開講座（いずれも無料）等を開催します。
- イ. 越谷キャンパスでは、埼玉県「大学の開放授業講座（リカレント教育事業）」に協力し、「文教大学シニアアカデミー」を開講し、埼玉県在住で55歳以上の方の授業聴講を受入れます。
- ウ. 越谷キャンパスでは、越谷市・松伏町等と共に埼玉県の社会教育事業「子ども大学」の実行委員会を構成し、越谷市・松伏町の小学生を対象に本学教員による講義を提供します。
- エ. 湘南キャンパスでは、茅ヶ崎市との共催により市民向けの無料講座を開催します。
- オ. 東京あだちキャンパスでは、足立区と連携し区民向けの講座を開催します。

⑤ 保護者との連携

- ア. 父母と教職員の会と連携し、保護者に大学を知っていただく取り組みを進めます。また、文教大学で学ぶ学生が正課内外の様々な場面で学び成長していけるよう、保護者と共に支援方法を考え、取り組みます。また、2015年度から始めた学生向け「100円朝食」の提供も、父母と教職員の会との共同事業として引き続き実施します。
- イ. 父母と教職員の会が開催する「一日大学」「親と子のための進路問題研修会」において、参加された保護者に対し、情報学部では、学部教育・進路対策などの説明会を実施します。健康栄養学部では、学部教育の内、特に臨地実習や管理栄養士国家試験対策の説明会を、卒業生を交えて実施します。いずれも説明や懇談を通し保護者との連携を深めます。国際学部では、学部教育説明会や学科別懇談会を実施します。また、経営学部では、入学予定者の保護者を対象とした学部教育説明会を実施することにより、保護者との連携を深め、学生指導の強化を図ります。大学院進学という進路選択についても説明会を実施することにより、保護者に入学前から大学院生への理解との連携を促します。国際学研究科では、オープンキャンパスの際に大学院の資料を提供し、大学院進学という進路を提示します。

⑥ 大学間の連携・協力

- ア. 越谷キャンパスでは、「埼玉県東部地区大学単位互換に関する協定」に基づき、埼玉県立大学、獨協大学及び日本工業大学との学生の単位互換制度を継続して実施します。
- イ. 湘南キャンパス及び東京あだちキャンパスでは、「文教大学と名桜大学との単位互換に関する協定」に基づき、沖縄県名護市の名桜大学と本学の学生とを相互に単位互換特別聴講生として受入れ・送り出しを行います。

- ウ. 情報学研究科では、2012 年度に加入した「神奈川県内の大学間における大学院学術交流」に基づき、協定校が相互に授業を開放する単位互換制度を継続して実施します。
- エ. 東京学芸大学、上越教育大学及び埼玉大学の各大学と締結している連携協定に基づき、教員養成の高度化に係る連携事業について実施・検討します。

7 校舎施設設備の改善計画

<越谷キャンパス>

① 越谷キャンパス 13 号館空調機更新工事

快適な教育環境の整備において、重要な設備である空調設備の安定的な運転実現のため、現在故障率が高まっている13号館空調設備の更新工事を実施します。施工期間は、空調機冷暖房運転への影響が少ない中間期（秋期）を予定しています。

② 越谷キャンパス 3・8・12 号館空調機・冷温水発生器予防保全工事

安定的な教育環境維持のため、3・8・12号館空調設備の予防保全工事を実施します。

3・8号館は、冷温水発生機バーナー等燃焼系部品、センサー・基板・電磁開閉器等電装系部品、冷却塔ベルト、12号館はGHPエンジンオイル・ベルト・オイルフィルター・プラグ等、交換時期を迎えた部品の交換を実施します。

<湘南キャンパス>

③ 湘南キャンパス建物外壁調査及び改修工事

湘南キャンパスの建物の大半は、タイル張りの仕様になっており、特定建築物定期調査の定期報告にて外壁全面調査が必要となっています。2022年度は、学生の歩行する箇所を最優先に1・2・4号館、事務棟の外壁調査及び改修工事を実施しました。2023年度は、3・4・5・6号館、図書館、学生食堂、事務棟の外壁調査及び改修工事を行い、キャンパスの安全性確保を図ります。施工期間は、授業に影響が少ない夏期休暇期間を予定しています。

8 入試制度、募集強化計画

① 大学入学者選抜改革への対応

大学入学者選抜改革への対応では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の学力の3要素を多面的・総合的に評価するための入試制度の完成を目指し、2024年度入学者選抜(2023年度実施)から全学部で総合型選抜を実施します。新課程履修者が受験する2025年度入学者選抜(2024年度実施)に向けては、旧課程履修者に配慮しつつ作問体制の整備を検討します。

また、出願時の煩雑さを解消した、受験生にわかりやすい入試制度を目指し、本学入試制度の見直しを引き続き検討します。

② 募集強化計画の実施

受験生及び高校1・2年生と直接接できる機会を増やすよう高等学校で開催される説明会や模擬授業、会場形式の相談会等に積極的に参加します。また、高等学校からの依頼による団体での大学見学を可能な限り受け入れます。

オープンキャンパスにおいては、感染症対策を講じながらも多くの受験生及び保護者の方が入場できるよう工夫し、内容についても、より本学の魅力が伝わるよう引き続き検討します。

総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜の入試種別ごとに対象とする受験生及び保護者や高等学校の進路指導教員などを絞り込み、情報発信することを検討します。

③ 付属学校との関係性強化

2024年度入学者選抜(2023年度実施)から、付属高等学校の生徒を対象とした入試を3月に新設します。

また、大学見学の実施や2025年度入学者選抜方法など、引き続き付属高等学校と連携しながら検討します。

9 その他

① 文教大学ウェルネス&未病リサーチセンターの設置

SDGsの実践と人生100年時代への社会貢献を目指し、新たに、「文教大学ウェルネス&未病リサーチセンター」を開設します。当リサーチセンターは、既存のあらゆる枠組みを離れ、学際・業際の経験と知恵を集めて、未病ゾーンにあるさまざまな課題を解決するオープンイノベーションを実現し、地域社会へ還元することを目指します。

(3) 文教大学付属中学校・高等学校

1 文教大学付属中学校・高等学校のポリシー

本校で学ぶことで、すべての人を信じて、あたたかく優しく思いやる「人間愛」の精神を育むとともに、これからの変化する社会においても、しっかりと対応できる学力とスキルを身に着けさせます。また、自己の夢や将来の進路を発見し、自己の進路実現によって、日本のみならず、世界の人々の幸せな生活に役立ち、グローバルな社会に貢献できる人材を育てます。

2 当該年度の教育目標

建学の精神「人間愛」に基づく教育活動をすすめ、すべての人を大切に思う「慈愛の心」、学力を向上させ、知識とスキルを磨き、自分で課題を発見して解決を目指す「輝く知性」、コミュニケーション能力や、ICTのリテラシーを高め、グローバルな視点をもつ「世界に飛翔する力」を育てます。これらの取り組みで、自ら積極的に進路を切り開き、チャレンジすることができる、「自律した学習者」の育成を目指します。

3 当該年度の教育活動計画

① ICTを活用した効果的な授業の実施

2023年度は、タブレットPCを導入して5年目となります。すでに、通常の授業や課題配信、オンライン授業、学校行事等の様々な場面での有効活用が進められています。さらに、より有効的なICTの活用を工夫して、PCを調べる活動だけではなく、生徒の自主的・主体的な学習に向けた活用等を工夫して、学んだことの発信やプレゼンテーションスキルを向上させます。

② グローバルコンピテンスプログラムの活用

これからのグローバル社会で活躍することができる人材の育成を目指し、2022年度から新規に実施しており、良好に進めています。コミュニケーション能力、異文化理解、リーダーシップ、チームビルディング、モチベーションと共感、批判的思考等の6つのユニットを、派遣された外国人講師からオールイングリッシュで学ぶプログラムで、これからの社会に生きるために必要となる知識とスキルを身に着ける学習を実施します。

③ 新教育課程の適切な実施

2022年度学習指導要領の改訂に伴い、2022年度から新カリキュラムを導入して、年次進行の2年目となりました。知識と技能の習得、思考力判断力の育成を重視し、主体的に学習する力を確実に付けて、学びに向かう力と、確かな学力、自ら課題を解決する力を育成します。また、総合的な探究の時間については、学年を超えた探究グループでの、横断的・総合的な学習により、課題を発見して解決していく資質・能力を育成して、探究的学習や体験活動を通じて、生徒同士の協動的な学びを深めます。

④ 進路行事・キャリアガイダンスの強化

進路行事（学生による大学紹介、大学体験授業、オープンキャンパス参加、希望進路レポート、共通テストガイダンス、職業講演会、国際理解講演会、探究学習発表会）の適切な実施で、生徒の進路目標の明確化や、キャリア意識の形成を図ります。また、文教大学との

連携もさらに進め、文教大学の授業体験の継続や、本校生徒・保護者のキャンパス見学会等の新規実施をします。

⑤ 進学実績の向上

学力向上に向けて、授業の改善や効果的な ICT の活用を進めるとともに、年間 5 回の模擬試験を実施します。また、学習状況の個別資料や受験データを基にした面談の実施等、きめ細かな進学指導を実施して、安易に入れる大学を選ぶのではなく、積極的に難関大学へチャレンジすることを促して、難関大学合格者数の増加を目指します。

4 当該年度の教育活動計画

① ICT 機器の活用研修

生徒の自律的な学習を推進するため、より一層タブレット PC や、学校用 ICT 支援サービス Classi 等の Web での連絡ツールを活用した、課題の配信・回収のスピードアップを図るために、全教員が本校の ICT 機器を十分に活用した授業を進めることができますようします。そのため、様々な授業での活用の工夫や機器の扱いについての研修を実施し、各教員の ICT 活用のスキルを高めていきます。

② 進学実績の向上に向けた研修

生徒カルテ（毎年の模試結果、成績、出欠状況、課外活動、面談記録、各種検定取得等の情報を随時更新したデータ）を面談や進路指導に有効活用します。さらに、大学の情報・出願指導計画の情報共有、受験生出願傾向等を把握するための教員研修や、進学指導研究会を年 3 回実施します。また、生徒の進路面談での受験計画の作成のアドバイス、個々の生徒の受験校の絞り込み等により、難関大学へのチャレンジを進めていきます。

また、大学入学共通テストの結果を踏まえた、「出願指導検討会」を実施し、生徒の国立大学の出願先の選定に向けた指導を徹底して、難関校合格者数の増加を図ります。

③ 教員研修の実施

いじめやハラスメント等、教育上の諸課題について、夏期教員研修会で外部講師から学ぶ機会を継続します。校内研究授業においては、学校全体の共通テーマから教科ごとの課題を作成し、授業力の向上に努めていきます。また、私立学校協会等の主催する校外での研修会について、教職員の参加を積極的に奨励し、教育力の向上を一層図っていきます。

5 当該年度の学習者支援事業計画

① 文教ステーションの実施

2023 年度から、中学校 1 年生～高校 1 年生までは、学習習慣の確立のために全員が参加、高校 2・3 年生は、主体的な学習を促すために、選択して参加する形式に変更しました。学習指導講師派遣会社と契約し、生徒の放課後・休憩中の自習室の管理・運営、生徒の質問対応、特別講座の実施等、生徒の授業外の学習支援を行うことで、学習習慣の確立や、予習・復習のための時間として有効活用させ、基礎学力の向上を目指します。また、高校 2・3 年生は、英語検定等の検定対応や、定期テスト対策講座、難関大学進学に対応した講座、総合型選抜入試対策の個別の指導プログラム等を実施してより効果的な学習支援を実施します。

② 各種検定取得の推進

英語検定・漢字検定・数学検定をそれぞれ 3 回校内で実施し、受験者を増やし基礎学力の向上や進学対策に活用します。

③ 長期休業中の講習の実施

授業担当教員による、テーマや習熟度に応じた夏期、冬期、春期の休業中の講習を、各期それぞれ 2 回以上実施し、基礎や発展的な学力向上を目指します。

6 当該年度の保護者連携事業計画・地域連携事業計画

① 保護者会、学級懇談会の実施と学年通信の配信・配布

学年ごとの保護者会、学級ごとの懇談会を年間 2 回実施し、学校情報の提供や、保護者向け進路ガイダンス、生徒の学習状況の紹介等を実施します。また、学年ごとに、月 1 回の学年通信を、Classi 上で配信するとともに、紙面での配布も行い、行事や教育活動・学校行事の紹介や、家庭への伝達事項の確実な周知をしていきます。

② ボランティア活動を通じた地域との連携

地域高齢者施設での吹奏楽演奏や、地域での清掃活動、地域の祭りでの手伝い等を実施して、地域との交流を一層進めます。

7 校舎施設設備の改善計画

① 学習環境の整備

健康で安全で快適な学習環境を維持するため、修繕や施設の改善を速やかに行っていく、潤いとなごみのある共有スペースの作成も進めます。

② ICT の環境のさらなる整備

授業や、学校行事、生徒募集に有効活用するため、大型プロジェクターや、ディスプレイ等の新規購入整備をさらに進めます。

8 入試制度、募集強化計画

① 入試制度の工夫改善

入学者の質と量の確保を目指し、2023 年度の入試結果を踏まえて、中学校入試では、入試の回数と募集人数の配分、入試科目の検討と見直しを進めます。高等学校入試では、推薦基準、入試回数等について、他校の状況も考慮して検討・改善を進めます。

② 学校 PR 活動の推進

常に全教員がリクルーターになり、塾訪問、公立中学校学校訪問・個別相談・外部相談会を担当して、本校の PR のポイントの説明や質問対応のマニュアルの周知徹底により、適切な学校 PR 活動を引き続き推進していきます。

③ 学校説明会の工夫

2023年度入試の反省を踏まえ、来校者の更なる増加を目指して、様々な入試広報イベントを企画し、出願者の増加につなげていきます。また、イベント以外でも、平日の夕刻や土曜日等、予約制の学校見学の受け付けも継続し、教員による学校案内や個別相談を実施します。

④ 特待生制度の効果的活用

入試広報・募集活動で中学校・高等学校それぞれの特待生制度の魅力を周知して、学力上位層の受験と入学を促し、学力で切磋琢磨する校内環境を目指します。

9 その他

① 海外研修プログラムの推進

海外へ行くことが難しい状況が続く中でも、保護者や生徒の海外研修参加希望者は多いため、旅行会社や留学サポート会社を通じて、状況確認や新規プログラムの検討を進め、海外研修プログラムを止めることなく継続発展させます。

② 留学・語学研修プログラムの新規開拓

オーストラリア短期・中長期留学、カナダ中長期留学、セブ島英語研修を継続実施します。また、さらに、海外大学進学指定校推薦制度（UPAA University Partnerships for Alternative Admissions）を活用して、海外大学への進学情報や出願指導、留学の斡旋、奨学金の申請等を受けられるようにします。

(4) 文教大学附属小学校

1 文教大学附属小学校のポリシー

「ほがらかに ただしく きよく あたたかく」

建学の精神「人間愛」を礎に、「あたたかい ふるさとのような学校」において世界に羽ばたく国際人を育成します。

2 当該年度の教育目標

「慈愛の心をもった子ども」「自ら学ぶ子ども」「情操豊かな子ども」

「頑張る子ども」「明朗な子ども」の育成

- 一人ひとりの可能性を大切に育み、一人ひとりが輝ける学校へ
- 「教えられる学校」から「学びを創る学校」へ
子どもたちが自分自身の思考において活動する能動的な学びを創ります。
- いついかなるときも、学校と子どもと家庭がつながり、学びを止めない、学び続けることのできる「強い学校」を創ります。
- 多様な価値観を受入れられる柔らかい心と自分の考えの軸をもって表明できる強い心をもったグローバルに活躍する人材を育みます。

3 当該年度の教育活動計画

① 非認知能力・知的能力を高める体験活動や縦割り活動の充実

学力やIQなどを指す認知能力と数値化できない非認知能力。昨今では、非認知能力の大切さが見直され社会にも浸透しつつありますが、一方では認知能力も大切な力であり、小学校時代はバランスのとれた能力の育成が不可欠ととらえています。

そこで、新型コロナウイルス感染予防に配慮しつつ、この3年間コロナ禍で十分な活動ができなかった体験活動を重点的に充実させていきます。しかしながら、「体験ありき」ではなく、「生きて働く」知的能力を高めていくために、さまざまな活動において「本物と出会う」「心に火を付ける」体験活動を取り入れていきます。

■身近な自然との触れ合いや体験によって身につく「非認知能力」「認知能力」

「探究力」

子どもが自ら学ぼうとする学びの力。もっと知りたい・理解したいという知識欲と探究心はダイレクトにつながっているため、学力にも大きく影響します。面白い、楽しいという体験だけに終わらぬよう、「なぜ」「どうして」と考えさせる働きかけが重要と捉えます。

「意欲」

勉強、運動、人間関係、全ての社会行動の源泉となる意欲。好奇心をもって積極的に物事に向かおうとする姿勢は、学びの場で欠かせないものであると捉えます。

体験を通して、自分の身体を思い通りに動かせるようになると何事に対しても意欲が増し、自立心も高まります。体験の中で試行錯誤することで、思考力の芽生えにも繋がると考えます。

「コミュニケーション能力」

自分を知り、他人を知り、違いを受け入れるのが、コミュニケーション能力の根幹です。

縦割り活動や体験活動を通し、「話す能力」「聞き取る能力」等、自分と同じ部分、違う部分、微妙な違いも察しながら受け入れていく豊かなコミュニケーション能力を育てます。

「自制心（見通し能力）」

「のちの満足のために今の欲望を制することができる力」つまり自制心も、縦割り活動や体験活動の中で培われるものにとらえます。この自制心の有無の結果が、学力をはじめ、将来の社会的成果に影響するものであり、大切な力であると考えます。

■本校における体験活動の一例

「北アルプス自然教室（5月）」

- 富山県氷見市島尾海岸にて漁師の方と共に地引網体験
普段食卓にあがってくる魚がいかに多くの方の苦労によって支えられているものか、かつ漁師の方々の仕事への情熱、海の生き物の生態系を体感する。
- 井波の彫刻体験
木彫り職人の方の仕事に触れ、モノづくりの苦労と魅力に触れる。
- 白川郷合掌造り
世界遺産である合掌造りを守り継ぐことの苦労と工夫を生の声を通して知る。

「八ヶ岳自然教室（5月）」

- 農業体験：田植え
農家の方からのご指導を受けながら、田植えを体験し、普段口にしてはお米がいかに多くの方々の苦労によって得られているものか、その価値を知る。
- 酪農体験：乳しぼり・牛の心臓の音を聴く・牛の毛をとかす
生命あるものから肉や牛乳をいただいていることを実感する。

「尾瀬自然学校（9月）」

- 尾瀬の湿原探索
尾瀬の湿地帯の豊かな自然に触れ、その保全に携わる方々の苦労を知る。
- マスのつかみ取り
生命をいただいていることを実感するとともに感謝の気持ちをもつ。

② 「21世紀型スキル」の育成：STEAM教育推進

子どもたちが向かう近未来は「Society5.0」社会であり、「答え」のない時代だからこそ、答えを自ら創造していける人材を育成していく必要があると考えます。

我々が想起する Society5.0 とは

- ・ IoT で全ての人とモノがつながり、新たな価値が生まれる社会
- ・ イノベーションにより、様々なニーズに対応できる社会
- ・ ロボットや自動走行車などの技術で、人の可能性が広がる社会
- ・ AI により、必要な価値が必要なときに提供される社会 等

Society5.0 でもとめられるチカラとは

- ・ Science Technology Engineering Art Mathematics
これらを横断的に活用し、問題解決していくチカラ

<展望>

S. Science

自らのなぜ？（疑問）を引き出し、実験を通して、楽しみながら論理的に考える力を身に付けます。

T. Technology

急速に変化する現代社会に対応できるよう、様々なアプリを創ったり、最新の技術を体験します。

E. Engineering

ロボットや、レゴ、パズル等を自分で組み立てたりすることで、AI時代を生き抜く、自らで考え、取り組む力を身に付けます。

A. Art

モノをつくったり、デザインしたりする楽しさ、ワクワクを与える Art を取り入れ、想像力を身に付けます。

M. Mathematics

苦手な人も多い数学を知ること、世の中の流れを論理的に読み解く力を身に付けます。

<内容>

3年生以上の総合的な学習を「STEAM:B」とし、STEAM教育を推進する。

【課題設定】テーマにそって自分が追究したいことを見つける。

【情報の収集】自分が設定した課題の解決に向けて情報を集める。

【整理・分析】集めた情報を活用し整理し自分なりの発見を見つける。

【まとめ・表現】発見したこと等を相手にわかりやすいように手段を選んで伝える。

③ 文教大学附属小学校における ICT 教育の推進

Society5.0 時代を生きる児童が「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、生きる力」を身に付けるために、個別最適化された学びを持続的に実現していきます。

<展望>

ア. ICT 機器を文房具のひとつとして使える人材の育成

近年、「生きる力」を育成するためには、情報活用能力が不可欠であることが叫ばれています。また、現代において、情報活用能力は欠かせないものであると考えます。よって、文教大学附属小学校としては、ICT 機器を文房具のひとつとして使える人材を目指し、ICT 教育を推進します。

イ. 学校内におけるネットワーク環境整備計画

- ・全児童一人ひとりへ Google アカウント（学校保管）を配布
- ・一人ひとりの Google アカウントを使用し、Google Classroom を開始
- ・Google Workspace for Education Fundamentals の利用環境の構築
- ・普通教室での無線 LAN 接続環境の整備

<内容>

ア. ICT 教育で目指す 3 つの力

- ・情報活用の実践力
- ・情報の科学的理解（コンピュータ・リテラシー）
- ・情報社会に参画する態度

イ. 各ブロックにおける目標

- ・低学年（1年生、2年生）遊び感覚で行える活動を通して、コンピュータやインターネットに慣れ親しむ。
- ・中学年（3年生、4年生）グループにおける問題解決や表現活動を進め、基礎的な情報活用の実践力を身に付ける。
- ・高学年（5年生、6年生）個人やグループにおける課題解決学習を中心とし、主体的な情報収集・発信・伝達手段の選択ができ、情報活用の実践力を高める。

ウ. 「情報モラル」について

- ・発達段階に合わせて系統的に指導を進めるとともに、教師自身も「情報モラル」を深く理解したうえで指導にあたります。

④ 国際社会で活躍する人材の育成：英語力の強化

ア. 「オーストラリア短期留学」への参加

2015年度から実施しているオーストラリア短期留学を3年ぶりに復活します。個々の英語力に関わらず「英語でたくさんコミュニケーションをとり、異文化をより多く体感する」というコンセプトは、変わらず、これからも国際人を育みます。24時間ALL ENGLISHの環境は、グローバルな人材形成に大きく寄与するものと考えます。

また、コロナ禍の3年間、渡航することは叶わなかったものの、オーストラリアのクイーンズランド教育省との信頼関係は途絶えることなく在るものです。

2023年度オーストラリア短期留学の保護者対象のオリエンテーションでは、クイーンズランド州教育省からスタッフが来日されます。子どもたちの渡航の安全と学びの充実のためにも、この関係をつなげていきたいと考えます。

イ. 「TOKYO GLOBAL GATEWAY」への参加・「ENGLISH TIME」の継続

2020年度から実施の新学習指導要領においては、これまで小学校5年次～6年次において実施されてきた「外国語活動」を教科化し、更に「外国語活動」を前倒しして3年次～4年次で実施するよう移行措置が示されています。中学校、高校においても習得すべき英語力に関する目標の引き上げが行われ、高校卒業時点で現在の3,000語レベルに対し、4,000から5,000語レベルの英語習得が目標とされています。そこで、本校においても国際社会で活躍する英語力の育成を図ります。「英語が話せる文教大学付属小学校生」を目指して、2019年度まで週1時間だった英語の時間を、2020年度全ての学年において週2時間の設定とし、英語に触れる機会を更に増やしてきました。2023年度もこの英語時数を確保します。45分の枠に縛られない短時間学習（毎日10分×2回）：モジュールタイムにおける「ENGLISH TIME」を今後も継続して設置し英語力を強化します。

また、近年東京都に設立された「TOKYO GLOBAL GATEWAY」に3年生以上が参加することも継続します。施設の中で使われる言語は全て英語という環境の中で、授業で身に付けてきた英語の力を「活用の言語」として今後も生かします。

ウ. 「英語の絵本コーナー」の充実

図書館が校舎の中央部にある特長を活かし、「英語の絵本コーナー」を充実させます。日本語でも馴染みのある絵本の英語シリーズを取り揃える等、英語に親しめる環境を引き続き整えます。

エ. 「英語の電子辞書」の活用

児童の手に取りやすい場所に英語の電子辞書を設置し、わからない単語があれば検索し、興味のある言語に触れる機会を設け、「生きて働く英語のチカラ」を育成します。

⑤ 「全館図書館」のメリットを生かし、「読む力」「書く力」の言語力を強化

学校の中心に本があり、どこの教室であっても本が身近に手に取りやすい「全館図書館構想」の環境は、どこの学校にもない唯一無二の文教大学附属小学校独自の特色です。この好環境を最大限に生かし、「読む力」「書く力」を中心とした言語力を今後も強化します。

- ア. **【読む力】**「全館図書館構想」の校舎に移り変わってから、国語の学力テストの平均点が向上してきたことに加え、児童の姿に変化が見られています。児童同士の話題がテレビやゲームの話から本の話に変わってきています。また、児童のかばんの中にはいつも本が入っている、そのような変化も見られます。今後も継続し、モジュールタイムを活用した本に親しむ時間を意図的・計画的に組みます。
- イ. **【書く力】**日々のおたよりノート（日記）を通して、自己を振り返り、考えや思いを文章で表現する書く力を身に付けます。また、全校児童の作文を文集「すぎな」一冊にまとめます。この完成までに、何回も推敲を重ねて作文を仕上げていく経験を1年生から取り組んでいきます。
- ウ. **【話す力】**3年生以上は、弁論大会という大きな取り組みに参加します。この取り組みを通し、論を立てまとめて表現する力を身に付けます。国語の授業の中で書き溜めた小文の中から、各自がテーマをひとつ取り出し、そこに道筋をつくって論を組み立てていくことによって、書く活動から自分の考えを明確に表現していく力を身に付けます。

⑥ プログラミング教育の充実

2018年度から導入している人型ロボット「Pepper」を活用し、論理的思考力を児童に付けるべく「プログラミング教育」を充実させます。

「2DAYS Pepper」

2日間ずつ Pepper が教室をまわり、プログラミングの授業を設定しやすくしたり、触れ合ったりする機会を学期ごとに設けます。発達段階に応じて、Pepper と遊んだり、Pepper が学校案内をできるようにプログラミングを組んだりして、プログラミングの力を身に付けます。

⑦ 自分の考えをもち広げ深める力の育成：「考えの形成」を促す指導法の工夫

「学ぶこと・考えることを楽しむ」

本校独自の年間指導計画・単元ごとの評価規準の充実と活用

各教科の学年目標や内容を十分に満たし、更に上の学年の内容を先取りする年間指導計画と評価規準表を全教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間にわたって再編成・決定し、活用することによって、児童の力をバランスよく育てます。

⑧ 指導体制の工夫による個に応じた指導

ティーム・ティーチングや習熟度別学習、課題別グループ活動等を適切に行い、個に応じた指導を徹底し、基礎学力の定着と学力向上を図ります。特に学力差のつきやすい算数においては、どの学年でもティーム・ティーチング、習熟度別学習を徹底し、一人ひとりの学力を確実なものとしします。

⑨ 基礎・基本の確実な定着

モジュールタイム、漢字検定（年間2回）、全学年辞書の日常活用、家庭学習の徹底（10分×学年数+20分と取り組みカード活用）、ノート指導等、きめ細かな指導を積み重ね、基礎学力を定着させます。

⑩ 多様な学習展開による学ぶ意欲の高揚

校舎の図書館や多目的スペースの活用計画を作成し、各教室の電子黒板等を有効に活用して、分かりやすく思考が深まる多様な学習展開を工夫し、児童の意欲を高めます。

⑪ 日常的な運動継続による体力向上

1日2回の「活き活きトレーニング」や休み時間終了前5分間の「マラソントime」、始業前の外遊び、週2回の体操朝礼を意図的・計画的に教師も一緒に行うとともに、体育の授業の指導内容改善・充実を図り、更に人工芝の校庭や第二運動場を十分に活用して体力向上を図ります。

⑫ 縦割り活動の取り組みによる思いやりと豊かな心の醸成

全学年が参加する自然学校や学年別に参加する自然教室等の縦割り活動を通して、高学年は低学年への優しさとリーダーとしての責任感を育み、低学年は高学年から、リーダーとしてあるべき姿の頼もしさと自分が果たすべき役割を学びます。このように、学年を越えた関わりの中で豊かな心を醸成します。児童が人との関わりの中で「優しくされると 優しくなれる」と実感し、「人っていいな」と思える人格の基礎となる部分を形成していきます。

⑬ アフタースクールとの連携

アフタースクールのスタッフと更に連携を深め、放課後における児童一人ひとりの生活・学習を知り、児童への理解を深めます。

4 当該年度の研究活動計画

① 全教科で育てる「言葉のチカラ」

自分の考え・思いをもち、伝え受け止め（個別最適な学び）共に学ぶ（協働的な学び）子どもの育成～「学ぶこと・考えることを楽しむ」～

ア. 人が考え、判断し、表現する能力の基盤は言語です。特に国際社会における今、自分の考えを明確にもつことは、今後強く求められていく力であると考えます。また、従来「言語」における指導は国語科が中心になるものという既成概念がありました。しかしながら、本校では、教科の枠を超え、教師がチーム一丸となり子どもたちに指導していくことの大切さを日々感じているところです。そこで、2023年度は、全教科で一つのテーマに向かい、子どもたちの力をつけていきたいと考えます。低学年では「自分の考えをもつこと」、中学年は「自分の考えをもつとともに他者の意見を受入れること」、高学年では「他者の意見を受入れることで自分の意見を深めること」を、発達段階に応じて進めます。

イ. 教員の授業力向上に向け、「学ぶこと・考えることを楽しむ！」を主題に校内研究を充実させます。そのため、校内研究会並びに学びのウィークを設定し、どの教員も研究授業を通してお互いの授業を見合い、講師から指導を仰ぐことで、実践的な力を高めます。

ウ. 本校で押さえる「授業づくり」の2つの構成要素

- ・ 個別最適な学び…指導の個別化・学習の個別化を学習者の視点でとらえたもの
- ・ 協働的な学び…成果を仲間と共有し合い、より深い学びへとつなげていくもの

- エ. 「言語の形成を促す授業スタイル」の提案
- ・ 個の学びの設定
 - ・ 複数で解決していく課題の設定
 - ・ 共同的な学びを意識した机の配置スタイル
 - ・ 児童が話し合う場面の設定
 - ・ 児童が中心の教師の立ち位置
 - ・ 課題設定の工夫

② 外部研修への積極的な参加と成果の共有・還元

全教員が、年3回の日本私立小学校連合会（全国大会を含む）と個別課題研修に必ず参加し、研修成果をまとめて共有し、実践につなげていきます。

③ 日常的な教材の研究と準備

全教員は、週ごとの指導計画の記入と教材準備について、管理職の指導を受けて、日常的に授業改善を重ねていきます。

5 当該年度の学習者支援事業計画

① 系統的なキャリア教育

個に応じたきめ細かな進路指導のために、1年生から6年生までの系統性を明確にしたキャリア教育計画を活用して、全教育活動を通して指導を進めます。

② 個に応じた補習活動

4年生から6年生は、更に具体的に中学校選択への支援ができるように、児童・保護者への調査を行うとともに、面談を通じてニーズを正確に把握します。それに基づいて、補習計画を立てるとともに、指導内容や方法を改善・充実させます。

③ 適切な進路指導

全教員が、2校以上の中学校の入試説明会等へ参加して、情報の収集や共有を行っています。更に中学校受験への具体的方策を提案できるようにします。

④ 一人ひとりの「夢に向かう進路指導：進路指導部を中心とした指導体制」

付属中学校も含めた中学受験指導は、一人ひとりの将来の夢を実現するための第一歩とし、進路指導部を中心に子ども・保護者との丁寧な面談を重ね、指導に向かいます。

6 当該年度の保護者連携事業計画・地域連携事業計画

① 保護者参画による行事等

運動会、伝統芸能体験教室、持久走大会等において、これまでも父母の会からの支援を受けていますが、なお一層互いの担当者間の連携を密にして、内容の充実を図ります。父母の会主催の文教まつりやバザーも、児童にとって、更に心に残るものにします。

② 年間を通した保護者による参観や面談

児童の日常的な活動から、学校生活の状況を正確に知ってもらうためにも、保護者の行事参加や授業参観を定期的に行います。授業参観や教育懇談会は各学期1回ずつ計6回、学

校公開（3日間連続）1回、面談を年間3回実施し、充実した連携を育みます。

③ 地域連携強化による防災

防災対策、緊急時対応を万全にするために、地域防災会議への参加や関係部署との連携を引き続き密に行います。更に最良の判断で最善が尽くせる組織体制を整えます。

④ 協力・支援を生かす同窓会

同窓会は、月に1回本校で役員会を開いて連携をしています。キャリア教育や児童募集等への参画を更に強めていただくように協力を求めます。

2023年度からは、卒業生各年度ごとに「同窓会委員」を設定し、同窓会との連携を図っていきます。

7 校舎施設設備の改善計画

① ICT教育環境の整備

児童一人一台のパソコン導入に伴い、校舎内の無線LAN環境を更に整備します。ICT機器を文房具の一つとして使える人材育成を目指し、ICT教育を推進します。

8 入試制度、募集強化計画

① 広報活動の充実と応募者増への戦略

幼稚園・保育園・幼児教室等へ年間複数回訪問することで、本校の教育方針や進路指導等、幼児保護者に更に深く理解いただき、知名度を高めていきます。また、積極的に受験冊子や教育誌等への広告掲載等、広報活動を工夫し、多くの保護者に本校の良さ・魅力を知っていただくとともに「選ばれる学校」を目指します。

② 学校説明会の充実

幼児体験教室や模擬試験等、幼児保護者のニーズを踏まえ、年間5回の説明会の内容を回ごとに工夫し、充実したものにします。状況に応じて、オンライン配信による説明会も工夫し、より多くの方に、より幅広い手段によって告知していきます。

③ 学校外説明会の充実

幼児教室（外部業者）主催の本校単独学校説明会は、多くの保護者に本校を理解していただくうえで効果的であったため、2023年度も引き続き実施します。このような学校外説明会を広報として有効に活用し、本校の良さを広めていきます。

9 その他

① 「人間愛」あふれる文教っ子 大切な八か条

児童一人ひとりがポジティブな思考で各自の学びを成立させ、学級の仲間とともに深め発展させることができるよう、「学ぶための姿勢」を明確にしていきます。

「豊かな人間性」とともに、「学ぶ楽しさ」「学びの発見や友達との共感、わかった・できたという実感、もっと探究したいという意欲」を育てていきます。

【第一条】大きな声であいさつ・返事ができること。

【第二条】背中をまっすぐ伸ばして、いい姿勢で過ごせること。

- 【第三条】素直な気持ち、謙虚さをもって人に接すること。
- 【第四条】人のせいではなく、自分で責任がもてること。
- 【第五条】めんどろなことを後回しにしないこと。
- 【第六条】提出物、宿題について、ちゃんとやれること。
- 【第七条】困っている友達に進んで声をかけることができること。
- 【第八条】整理整頓、片付けがしっかりできること。

② 文教っ子スタンダード

建学の精神「人間愛」に基づく本校の教育方針や教訓、服装・持ち物、その他の保護者と共通理解したいこと等を記した「文教っ子スタンダード」を作成し配布することにより、教育活動における一定の理解のもと家庭と児童の品位を保持します。

③ 防災意識の向上

本校では、様々な設定において行う避難訓練を大切にしています。9月の防災の日に近いところで「防災の日」を設定し、どのような災害においても「自助・共助・公助」の精神で、生命を守っていけるよう、防災意識を今後も高めていきます。

- ・「トイレがない！どうする？」…災害用トイレ・携帯トイレの作り方
 - ・「自分でできるかな？怪我の手当て」…骨折の応急処置・三角巾の使い方
 - ・「何を入れたらいい？非常持ち出し袋」…非常持ち出し袋の必要性
 - ・「ペットボトルのキャップが大変身」…シャワーの作り方
 - ・「消火器使えるかな？」…消火器の使い方実践
 - ・「食べてみよう！非常食」…備蓄食品を実際に試食
 - ・「水が出ない！歯みがきができない！」…口内衛生・歯みがきができないとき
唾液を出すマッサージ
 - ・「意外と使えるラップ」…包帯代わりや皿代わり・耳栓やヒモ活用等
- 上記のような体験を積むことで「生き抜く」意識を学ばせていきます。

④ 「文教大学附属小学校 PC BOOK」の活用と情報モラルの徹底

一人一台のパソコンの導入により、授業や日常の取り組みの中で、今までできなかったことができるようになったり、児童のパソコンスキルが向上したり、効果的な面は様々にあります。一方で、「便利」と「危険」はとなり合わせであり、逆の側面である「SNSの危険性」や「情報モラル」については、学校と家庭とが連携し、責任をもって教育していく重要性があると考えます。そこで「文教大学附属小学校 PC BOOK」を作成し、児童・家庭・学校がこの冊子を通して連携しながら、パソコンの使用について「見える化」していきます。

(5) 文教大学附属幼稚園

1 文教大学附属幼稚園のポリシー

① 文教大学附属幼稚園の理念 「人間愛」

幼稚園では、幼児教育を後の人間形成の土台づくりの場と捉えています。建学の精神である「人間愛」を基盤とし、個々の園児に応じた指導を工夫し、それぞれの個性の伸長に力をそそぎ、のびのびとした教育を推進しています。

② 文教大学附属幼稚園の教育のコンセプト 「“学ぶ、をあそぼう。”の実施」

幼稚園では、教育の中心に「遊び」を位置付けています。“学ぶ、をあそぼう。”のコンセプトのもと、「遊び」を通して「意欲」「見出す力」「実行力」等、真の学ぶ力の素となる力を始め、生きる力の土台となる様々な力が身につくよう「遊び」を工夫しています。

③ 文教大学附属幼稚園の指導方針 「“文教スタイル”で子どもを伸ばす」

幼稚園では、豊かな自然と触れ合い、多くの人と関わり、遊びを始めとする多様な体験を通して、生きる力の基礎となる「意欲」「態度」「心情」等を育てています。

「認める・見守る・ともに楽しむ」という“文教スタイル”を基本にした指導で教育活動を展開し、子どもたちが秘めている可能性を十分に引き出せるよう努力しています。

2 当該年度の教育目標

建学の精神「人間愛」のもと、「素直で明るい元気な子ども」を教育目標として掲げ、教職員一丸となって子ども達を育みます。

- ア. 元気に挨拶ができ、正しい生活習慣を身につけた子ども
- イ. 慈愛・感謝の気持ちや思いやりの心を持ち、感じたことを素直に表現できる子ども
- ウ. 自分の役割を果たすとともに、自分のことは自分でやろうと努力する子ども
- エ. 好奇心が旺盛で、自ら積極的に行動できる子ども

3 当該年度の教育活動計画

- ア. 「認める・見守る・ともに楽しむ」という“文教スタイル”を教職員と保護者が共有し在園児・保護者と共に取り組める環境づくりに努め、子ども達の成長を導きます。
- イ. 様々な「遊び」の中で、組織的かつ計画的に教育課程を実践し、“学ぶ、をあそぼう。”を更に具現化し、「真の学ぶ力」を育てます。
- ウ. 「遊び」「運動」「行事」「生活」等の活動を工夫し、生きる力の土台を広げる教育を推進します。
- エ. コロナ禍であっても、園行事が楽しく体験できるように尽力し、様々な工夫を凝らして教育活動を実践します。

4 当該年度の研究活動計画

- ア. 幼稚園教育要領に則したカリキュラム作りを継続します。

- イ. 教員の指導力と資質の向上を目指し、品川区私立幼稚園協会や東京都私立幼稚園連合会主催の研修会に積極的に参加して指導内容・方法について、全教員で共有を図ります。また、教員勉強会では、「望まれる幼稚園とは」を題材に、地域ニーズの把握と対応策についても検討します。
- ウ. 少子化と共働き家庭の増加に対する幼稚園の将来展望の検討を行い、品川区における少子化や保育園の現状分析、働く女性の増加への対応策等を喫緊の課題として現状分析を行います。
- エ. コロナ禍の影響に左右されないように、Web を利用した園内研修会・講演会等を積極的に利用して、研究活動の一助とします。

5 当該年度の学習者支援事業計画

- ア. 本園が示す「目標とする力」と幼稚園教育要領で示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の関連性を吟味し、卒園時にそれらの力が身につくよう計画的に教育活動を実践します。
 目標とする力：「遊び」を通して身につく生きる力の素
 【触れ合い遊び】コミュニケーション能力 好奇心 想像力
 【運動遊び】体力 バランス感覚 敏捷性 集中力 根気 協力 ルール 健康意識の向上
 【学び遊び】協調性 思考力 想像力 創造力 語彙力 表現力 興味・関心
 【生活遊び】健康意識の向上 コミュニケーション能力 ルール・マナー 自立心 聞く力 話す力
 【自然遊び】好奇心 探究心 感性
- イ. 「遊び」を通して、「意欲」「見出す力」「実行力」等、真の学ぶ力の素を育てます。
- ウ. 附属小学校の説明会や園児の体験学習について、附属小学校と附属幼稚園の教員同士連携強化を図りながら「求められる児童」に関する情報を保護者に提供するとともに、附属小学校の「求める保護者」像も提供し相互の信頼を築きます。
- エ. 公立小学校スタートプログラムの共通理解と、公立小学校との連携内容の確認、幼稚園から情報提供等の検討を行い、公立小学校に入学希望する保護者を支援します。
- オ. 進学希望者の動向を早期に把握し、附属小学校を始めとする私立及び国公立小学校への進学を視野に「文教幼児教室（課外活動として実施している外部業者による学習支援プログラム）」との連携を深めます。また、幼稚園教育要領にある、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を身につけられるよう支援します。

<参考>

～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿～

- ①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり
- ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字等への関心・感覚
- ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現

6 当該年度の保護者連携事業計画・地域連携事業計画

保護者との連携強化・地域に根差した幼稚園の確立を目指し、園児の成長を保護者と共に楽しむ活動や環境を創造します。

- ア. 幼稚園が「求める家庭・保護者」の明確化を行うため、入園前の幼稚園説明会・入園説明会での詳細説明や、ホームページによるわかりやすい教育方針・教育目標・教育内容を紹介します。

- イ. 保護者との連携強化の取り組みとして、父母の会やおやじの会（父母の会の諸事業支援部として組織された在園児の父親の有志の会）との連携を密にして諸行事を円滑に実施します。また、幼稚園日より、各学年カリキュラムを発信するだけでなく、公式 LINE アカウントの周知を図り、幼稚園の活動を保護者や地域の方に公開します。
- ウ. 幼稚園説明会・入園説明会で実施したアンケート結果や、保護者アンケートを利用し、地域や家庭のニーズの把握とそれに応える方策を検討します。
- エ. 近隣在住の未就園児（2歳児未満）を対象として、幼稚園の園庭を開放する「ぶんぶん広場」を継続します。園庭開放・子育て相談等の実施によって、来園した保護者同士の交流の場として、広く地域に根ざした幼稚園の確立を目指します。

7 校舎施設設備の改善計画

- ア. 園舎の施設設備が順調に機能しているかどうか、常に安全確認を行い、有効活用に努めます。
- イ. 安全で安心した幼稚園生活が送れるよう、園児の目線に立った整備を進めます。
- ウ. 老朽化した園庭のガードクッションを随時交換して、園児の事故や怪我の防止に努めます。

8 入試制度、募集強化計画

安定した入園者の確保を目指します。

- ア. プレスクールは、2022年度から開催毎にWEB登録制に変更して参加者データを蓄積しています。このデータは、貴重な入園希望者データとして活用します。
- イ. 2歳未満の幼児を対象とした幼稚園の園庭を開放する「ぶんぶん広場」を充実させ、プレスクールにつながる活動を行います。
- ウ. 幼稚園で実施する見学会・説明会・相談会では、保護者のニーズとのミスマッチを防ぐため、幼稚園の「求める家庭・保護者」を分かりやすく説明できるように、プロジェクター映像を多用するほか、2022年度に作成したスライド（幼稚園説明・行事・サンクスレター）で幼稚園を身近に感じられるよう効果的に活用します。
- エ. 共働き世帯の増加を考慮し、実施日については、土曜日等参加しやすい日程を設定し志願につながる内容の検討を行います。また、外部業者が実施する説明会にも積極的に参加します。
- オ. 保護者にとって知りたいことがすぐにわかるホームページの構築を心がけ、アクセス回数・閲覧回数を増やす工夫をして、募集力強化に努めます。また、公式 LINE アカウントの周知を図り幼稚園の楽しい活動を速やかに公開します。
- カ. 入園希望者にとって知りたいことが一目でわかる幼稚園案内は、子ども達の楽しい園内活動を数多く盛り込んで製作し、希望者だけでなく通園圏内の幼児教室等へ配布します。また、新たに作成した幼稚園のPRチラシを近隣の児童館などに配布し、認知度UPを図ります。

9 その他

満足度が高い選ばれる幼稚園を目標と定め、募集・広報、教育、研究、園児生活、進路支援、保護者・地域連携の各領域について満遍なく実行し、多様な保護者のニーズに応えられるよう努めます。

(6) その他施設（八ヶ岳寮）

1 当該年度の主な事業計画

学園が設置している学校の学生・生徒・児童・園児・教職員に対して、自然教室を体感できる教育環境を整備し、引き続き運営していきます。

(7) 2023 年度の特別な事業

2023 年度に実施する主な特別事業は、次のとおりです。

①学園全体	
主な事業内容	
・ リスク管理対応体制の強化	
・ 寄附金事業の推進	
・ 校友活動の推進	
・ 学園ブランドの強化	

②大 学	
大学全体	・ 全国入試成績優秀者に対する特待生制度の実施 ・ 海外日本語教育インターン派遣プログラム助成
越谷キャンパス	・ 越谷キャンパス 13 号館空調機更新工事 ・ 越谷キャンパス 3・8・12 号館空調機・冷温水発生器 予防保全工事
湘南キャンパス	・ 湘南キャンパス外壁調査及び改修工事 ・ バスカード代替事業（バス通学定期券等購入代金補助） ・ スタジオ設備更新（5/5）
東京あだちキャンパス	・ キャリアイングリッシュ講座事業

③付属学校	
付属中学校・高等学校	・ 特待生の入学金免除、授業料給付金
付属小学校	・ コンピュータシステム保守

※主な事業内容の括弧内は、複数年計画の何年目かを表したものです。（例（1/2）⇒2年計画の1年目）

4. 当該年度予算の概要

(1) 2023 年度予算基本方針

- ① 「学園経営戦略（BUNKYO ACTION PLAN 2025）」に基づく事業については、実施計画の策定状況に 応じて、必要な経費については、極力、予算に反映すること。
- ② 学園の学習者減少傾向により収入が減少していることや、物価、エネルギーコスト高騰により支出が増加する中において、限られた経営資源で最大限の効果を上げること。
- ③ 業務効率化と合理化を絶えず念頭に置くこと。

(2) 2023 年度予算総括表

1 資金収支予算総括表

【収入の部】

(単位：円)

科 目	2023 年度予算	2022 年度予算	増減 (△)
学生生徒等納付金収入	10,516,506,000	10,469,846,000	46,660,000
手数料収入	350,045,000	389,877,000	△39,832,000
寄付金収入	25,563,000	21,793,000	3,770,000
補助金収入	1,496,808,000	1,465,983,000	30,825,000
資産売却収入	149,723,000	79,376,000	70,347,000
付随事業・収益事業収入	60,297,000	133,729,000	△73,432,000
受取利息・配当金収入	19,505,000	12,625,000	6,880,000
雑収入	307,820,000	217,563,000	90,257,000
借入金等収入	-	250,000	△250,000
その他の収入	14,525,000	100,455,000	△85,930,000
収入の部合計	12,940,792,000	12,891,497,000	49,295,000

【支出の部】

(単位：円)

科 目	2023 年度予算	2022 年度予算	増減 (△)
人件費支出	7,659,615,000	7,400,386,000	259,229,000
教育研究経費支出	3,524,559,000	3,416,848,000	107,711,000
管理経費支出	929,619,000	914,439,000	15,180,000
借入金等利息支出	9,563,000	9,885,000	△322,000
借入金等返済支出	400,000,000	400,000,000	-
施設関係支出	69,256,000	441,030,000	△371,774,000
設備関係支出	161,068,000	327,087,000	△166,019,000
資産運用支出	153,588,000	84,482,000	69,106,000
その他の支出	2,240,000	2,040,000	200,000
予備費支出	50,000,000	50,000,000	-
支出の部合計	12,959,508,000	13,046,197,000	△86,689,000

2 事業活動収支予算総括表

(単位：円)

		科 目	2023 年度予算	2022 年度予算	増減 (△)	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	10,516,506,000	10,469,846,000	46,660,000	
		手数料	350,045,000	389,877,000	△39,832,000	
		寄付金	31,100,000	26,785,000	4,315,000	
		経常費等補助金	1,496,808,000	1,465,983,000	30,825,000	
		付随事業収入	60,297,000	133,729,000	△73,432,000	
		雑収入	307,820,000	217,563,000	90,257,000	
		教育活動収入 計	12,762,576,000	12,703,783,000	58,793,000	
	事業活動支出の部	人件費	7,672,709,000	7,463,318,000	209,391,000	
		教育研究経費	4,828,544,000	4,752,972,000	75,572,000	
		管理経費	1,077,301,000	1,060,193,000	17,108,000	
		徴収不能額等	500,000	500,000	-	
		教育活動支出 計	13,579,054,000	13,276,983,000	302,071,000	
			教育活動収支差額	△816,478,000	△573,200,000	△243,278,000
	教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	19,211,000	12,625,000	6,586,000
その他の教育活動外収入			-	-	-	
教育活動外収入 計			19,211,000	12,625,000	6,586,000	
事業活動支出の部		借入金等利息	9,563,000	9,885,000	△322,000	
		借入手数料	-	-	-	
		その他の教育活動外支出	-	-	-	
		教育活動外支出 計	9,563,000	9,885,000	△322,000	
		教育活動外収支差額	9,648,000	2,740,000	6,908,000	
		経常収支差額	△806,830,000	△570,460,000	△236,370,000	
特別収支		事業活動収入の部	資産売却差額	-	-	-
	その他の特別収入		8,088,000	18,929,000	△10,841,000	
	特別収入 計		8,088,000	18,929,000	△10,841,000	
	事業活動支出の部	資産処分差額	80,000,000	40,329,000	39,671,000	
		その他の特別支出	-	-	-	
		特別支出 計	80,000,000	40,329,000	39,671,000	
			特別収支差額	△71,912,000	△21,400,000	△50,512,000
		〔予 備 費〕	50,000,000	50,000,000	-	
		基本金組入前当年度収支差額	△928,742,000	△641,860,000	△286,882,000	
		基本金組入額合計	△365,650,000	△919,155,000	553,505,000	
		当年度収支差額	△1,294,392,000	△1,561,015,000	266,623,000	

以 上